

平安京右京六条二坊六町跡

平安京右京六条二坊六町跡

2008 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京六条二坊六町跡

2008 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

歴史都市京都は、平安京建設以来の永くそして由緒ある歴史を蓄積しており、さらに平安京以前に遡るはるかなむかしの、貴重な文化財も今なお多く地下に埋もれています。財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、これまでに多くの遺跡の発掘調査を実施し、地中に埋もれていた古都の過去の姿を多く明らかにしてきました。

これらの調査成果は現地説明会、京都市考古資料館での展示、写真展あるいはホームページを通じて広く公開し、市民の皆様へ京都の地域の歴史に対し関心を深めていただけるよう努めております。

当研究所では、平成 13 年より個々の発掘調査の概要をまとめた報告書を刊行しており、その成果を公表しています。

このたび、道路拡幅事業にともなう平安京跡の発掘調査成果をここに報告いたします。本報告書の内容につきましてご意見、ご批評をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当遺跡の調査に際してご協力ならびにご支援たまわりました関係者各位に厚く感謝し、お礼申し上げます。

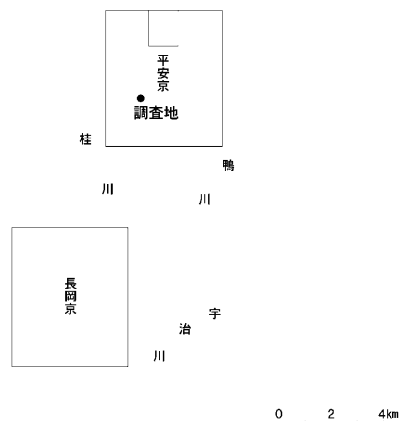
平成 20 年 6 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京六条二坊六町跡
- 2 調査所在地 京都市下京区西七条東御前田町地内
- 3 委 託 者 国土交通省近畿地方整備局 京都国道事務所長 見坂茂範
- 4 調査期間 2008年3月17日～2008年5月27日
- 5 調査面積 658 m²
- 6 調査担当者 小檜山一良・能芝 勉
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」「壬生」「西京極」・「島原」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。ただし、建物・柵・小径については別に番号を付した。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書執筆 小檜山一良：1～3・5、能芝 勉・近藤奈央：4
- 14 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。
- 15 整理作業において、泉 拓良氏（京都大学）にご教示を得た。記して謝意を申し上げる。



（調査地点図）

目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	2
2. 調査地の位置と環境	3
(1) 位置と歴史的環境	3
(2) 既往の調査	3
3. 遺 構	9
(1) 基本層序	9
(2) 遺構の概要	9
(3) 遺構	9
4. 遺 物	23
(1) 出土遺物の概要	23
(2) 出土遺物	23
5. ま と め	27
(1) 縄文時代	27
(2) 弥生時代から古墳時代	27
(3) 平安時代	27
(4) 室町時代以降	28
(5) 縄文時代の遺構・遺物に関して	28

図 版 目 次

図版1 遺構	1 第1面全景(東から)
	2 第2面全景(東から)
図版2 遺構	1 建物2、柵7(東から)
	2 柵3~5(北から)
	3 溝29・30、通路B、柵6(東から)
図版3 遺構・遺物	1 北部不定形土坑群(北から)
	2 落込み117出土縄文土器・石器

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	調査前全景（南東から）	3
図4	作業風景	3
図5	周辺既往調査位置図（1：5,000）	5
図6	南壁断面図（1：80）	10
図7	第1面遺構平面図（1：200）	11
図8	第2面遺構平面図（1：200）	12
図9	第3面遺構平面図（1：200）	13
図10	第4面遺構平面図（1：200）	14
図11	建物1実測図（1：50）	16
図12	建物2実測図（1：50）	17
図13	柵3～5実測図（1：50）	18
図14	溝29・30周辺実測図（1：50）	19
図15	不定形土坑群実測図（1：100）	20
図16	落込み117（南東から）	21
図17	縄文土器出土状況	21
図18	落込み117、溝118・119実測図（1：100）	22
図19	出土遺物拓影・実測図（1と6は1：2、他は1：4）	24
図20	平安時代遺構変遷図（1：400）	28
図21	四行八門内における調査区（1：1,000）	29
図22	平安京内縄文時代以前の遺物検出地点	31

表 目 次

表1	周辺既往調査一覧表	6
表2	遺構概要表	9
表3	遺物概要表	23
表4	平安京内縄文時代以前の遺物検出地点一覧表	32

平安京右京六条二坊六町跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯

この調査は、平成19年度五条大宮拡幅事業に伴う東御前地区埋蔵文化財発掘調査である。平成18年度から実施している1次～3次調査に引き続く4次調査である。調査地は、京都市下京区西七条東御前田町に位置し、平安京右京六条二坊六町にあたる。

当地に国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所により、国道9号線の拡幅工事が計画された。御前通から西大路通までの約300m間で道路南側を約20mの幅で拡張されることとなり、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「京都市文化財保護課」と略す）による試掘調査の結果により、発掘調査の指導がなされた対象地区を、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて、発掘調査をすることとなった。

これまで周辺では、五条七本松の大阪ガス跡地での貴族邸宅跡など平安時代前期を中心とした多数の遺構・遺物の発見が知られている。また、1～3次調査成果を参考に、今回は平安時代の宅地班給や宅地利用の実態を示す建物の配置などを知ることを主な調査の目的とした。

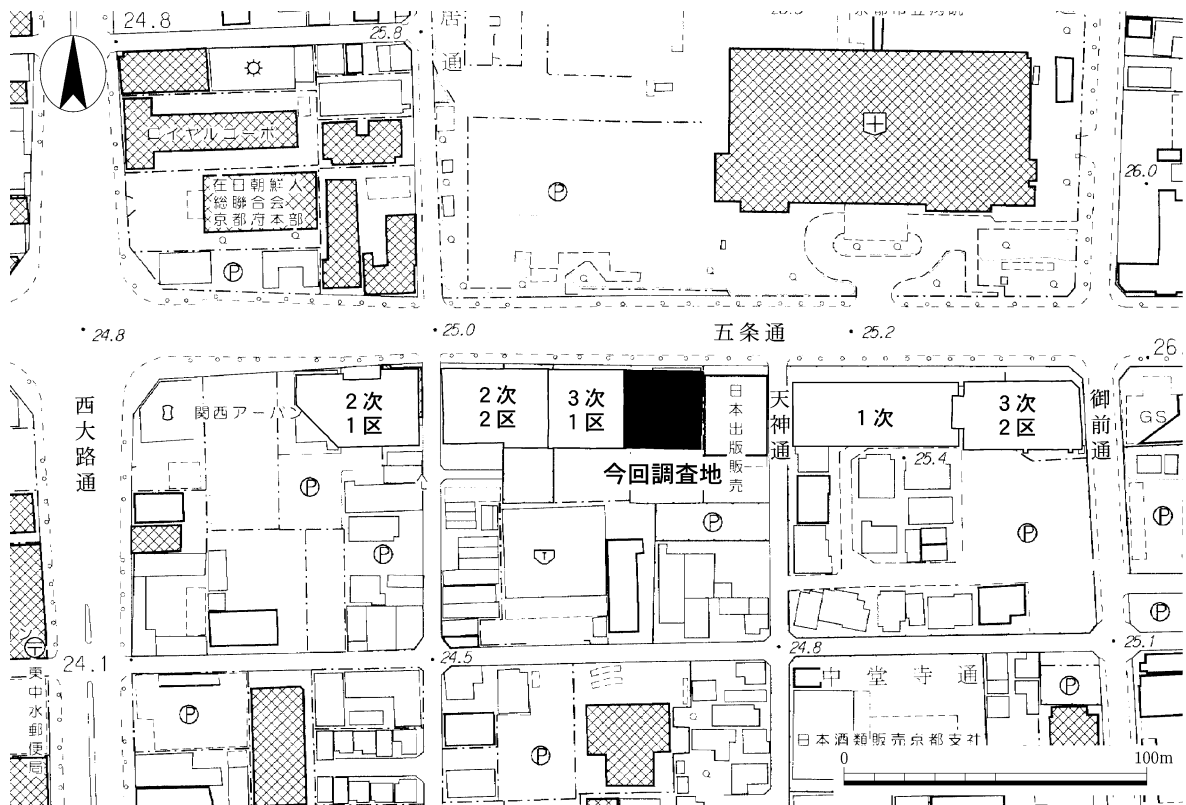


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

(2) 調査の経過

調査は、六町北東部の地点に、東西約 25 m・南北約 26 m、面積約 660 m²の調査区を設定した。なお、調査区西端は、前回調査の 3 次調査 1 区の東端に連続する形をとり、未調査の部分を残さないように設定した。

始めに、重機を使用して遺構面まで掘下げを行い、排土はダンプトラックで順次場外の土置き場に搬出した。重機掘削の進行に伴い、北東部には大型の既存建物の基礎があることが判明した。コンクリート地中梁の底部は、地表下約 1.3 m にまで達しており、遺構の遺存状態は極めて悪いと考えられたことから、京都市文化財保護課に基礎処置の指導を求めた。京都市文化財保護課・原因者と当研究所の三者で基礎の規模を確認し、処置方法について協議した結果、基礎よりも深くまで掘り込まれている遺構は遺存している可能性があることから、地中梁は調査区の北壁および東壁を除き全て撤去した。その後、人力での遺構調査を開始した。

調査区の西部と南部のおよそ 300 m²の部分で遺構面を検出することができた。しかし、基礎のあった北東部およそ 350 m²の範囲では、遺構は遺存していなかった。

検出した主な遺構は、室町時代以降の耕作に関連する遺構群、平安時代の掘立柱建物・柵・通路（小径）・土坑・溝などがある。また、弥生時代から古墳時代とみられる不定形の土坑群、さらに縄文時代晩期の落込みなども検出した。

これらの遺構の写真撮影・実測などの記録作業を調査の進行にあわせて行い、下層遺構の有無と堆積状況の確認をするため、調査区南壁沿いに断割りを行い、土層断面図を作成し、埋戻しを行った。その後埋戻し作業に伴って解体したフェンスを復旧し、全ての作業を終了した。

なお、調査の進行に伴い第 1～4 面の各遺構面で京都市文化財保護課の視察を受け、その指導の下に調査を行った。

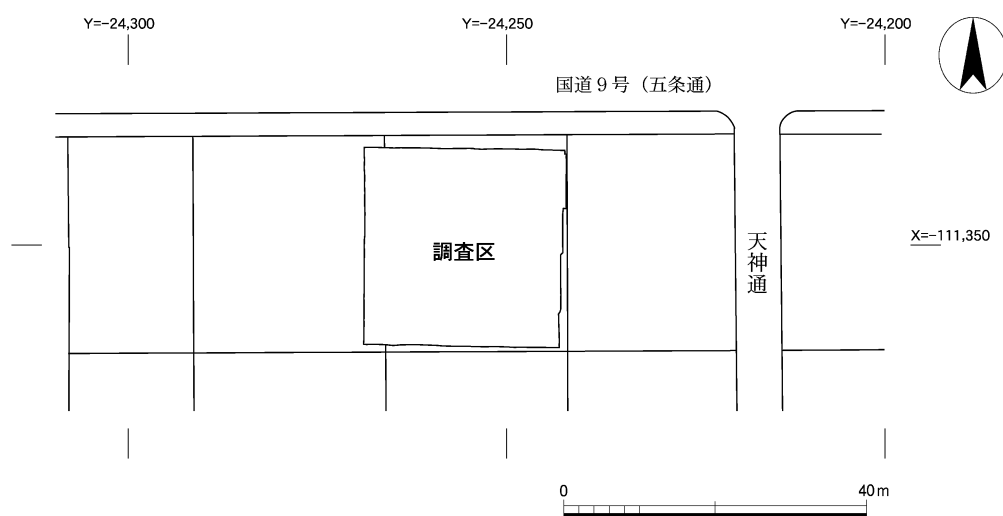


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)

2. 調査地の位置と環境

(1) 位置と歴史的環境

調査地は、平安京右京六条二坊六町の北東部にあたる。敷地外の北側に六条坊門小路が推定され、東側には西靱負小路が南北に通る。西側には運河としての機能を合わせもつ西堀川小路が南北に通る。四行八門制では、東一・二行のそれぞれ北二・三門にあたっている。

周辺には、北西方向 350 m に、おもに弥生時代の土坑群を検出した西院遺跡、南方 300 m には、方形周溝墓 2 基を検出した衣田町遺跡などの弥生時代から古墳時代の遺跡がある。『拾芥抄』西京図によると、平安時代後期には六町は三～五町とともに「号山荘」とされているが、実態はよくわかっていない。また、南には平安京の官営市場である西市跡が位置する。

平安時代中期以降に、右京域が平安京造営以前からの湿潤な土地環境のために、衰退していくに従って、当地周辺もさびれていったとみられる。中世になると、この辺り一帯は西七条村と呼ばれた。江戸時代には、村内を丹波街道が貫き同街道沿いに集落が形成され、当地一帯は耕作地としての利用がなされていた。

(2) 既往の調査

調査地周辺では、これまでに発掘調査・試掘調査・立会調査が実施され、その成果が報告されている。それらの調査成果を表 1 にまとめ、図 5 に調査地点を記した。ここでは本調査地周辺の概要を述べる。

平成 18 年（2006 年）の 1 次発掘調査（15）では、三町内で平安時代前期の 2 時期にわたる園池や溝、柱穴などを検出した。南北溝は三町の中心にあたることから、2 分の 1 町の宅地割りに関連する遺構の可能性も考えられる。平成 19 年（2007 年）の 2 次発掘調査（24）では、六町内の 1 区で平安時代前期の建物や区画溝、西堀川小路関連遺構を検出した。2 区でも、平安時代前期の建物や井戸、区画溝を検出した。これらは宅地内の建物の配置の実態を推測できる資料である。同年の 3 次発掘調査（16）では、三町内の 2 区で平安時代前期の建物跡を 7 棟検出した。3 時期にわたる宅地内の変遷が明らかになった。建物跡では、6 箇所柱の抜き取り跡で土器埋納遺構を確認した。



図3 調査前全景（南東から）



図4 作業風景

また、六町内の1区では、平安時代前期の建物跡を1棟検出した。三町・六町ともに、町の中央部で南北方向の小径を検出した。さらに、北二門・三門境には東西方向の小径も検出している。

他に六町内での調査例を概観しておく。1989年の試掘調査(23)では平安時代前期の井戸が検出されている。2007年の試掘調査(12)でも、平安時代前期の柱穴や溝も検出された。さらに、立会調査(21)では、平安時代の遺物の出土が報告されている。1985年の試掘調査(22)では、地表下0.9mの深い位置で平安時代の遺物包含層が確認されている。また、西靱負小路西築地の推定地では、試掘調査(12)が行われており、時期不明の小規模な南北方向の溝が2条検出されている。

二坊内での調査には、発掘調査を始めとして調査の成果が報告されている。北東側の二町では、京都市立病院敷地内で数回の調査が実施されている。1988年の調査(13)では、弥生時代の溝、平安時代前期の掘立柱建物4棟・井戸・溝・土坑、後期の土坑など、さらに中世の建物・溝などが検出されている。平安時代前期の西靱負小路東築地に近い位置や、町の中央付近で建物が検出されていることから、1町規模の占地も考えられている。東側の三町では、2006年の立会調査(14)で、地表下約1.2mの深い位置で平安時代の遺物包含層が検出されており、さらに約1.4mの深さで砂礫層の流れ堆積を確認している。南東側の四町では、立会調査(17)で、平安時代前期から後期の流れ堆積などが検出されている。また、試掘調査(18)では、平安時代後期の六条大路の北側溝を検出している。南隣の五町では、試掘調査(19)で平安時代前期の遺物包含層を確認している。また、立会調査(20)でも、平安時代の可能性のある遺物包含層を確認している。北隣の七町では、北東部の発掘調査(26)で、西靱負小路側溝と土坑が検出されている。試掘調査(28)で西堀川小路の流路堆積を検出した。また、1989年の立会調査(27)では湿地状堆積を検出しており、平安時代中期の遺物などが検出されている。北西側の十町では、発掘調査(32)により、平安時代前期から中期の掘立柱建物6棟以上・柵列2条など、鎌倉時代から室町時代の小溝群を検出している。このことから十町の中央寄りには平安時代前期から中期まで、複数の建物が配置されていたことが判明している。また、1987年の立会調査(33)では地表下0.3mで土坑を3基検出している。

西隣に位置する十一町では、立会調査(34)で溝状遺構が検出されている。南西側の十二町では、立会調査(36)で2時期の野寺小路の両側溝、路面整地土が検出された。さらに平安時代後期の遺物も出土している。試掘調査(35)では、推定位置で野寺小路東側溝が検出されている。

このように当地の周辺は、平安時代前期の遺構が比較的良好に遺存している地域である。

参考文献

- ・『京都市の地名』日本歴史地名大系第27巻 平凡社 1979年
- ・小澤嘉三『西院の歴史』西院の歴史編集委員会 1983年
- ・杉山信三「平安京右京の湿地について」『古代文化』40-9 (財)古代学協会 1988年
- ・(財)古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店 1994年
- ・『京都市遺跡地図台帳 第8版』京都市文化市民局 2007年

表1 周辺既往調査一覧表

No.	遺跡名	方法	所在地	調査期間	遺構	文献
1	右京五条一坊十三町	発掘	中京区壬生下溝町45	1987.07.01～07.14	平安時代～鎌倉時代の土坑。江戸時代の溝、土坑。	1
2	右京五条二坊・六条二坊	立会	右京区西院高田町地先～中京区壬生東高田町地先	1981.06.18～1982.03.31	平安時代以前の溝状遺構。平安時代の側溝(西鞠負小路西・西堀川小路東)、土坑状遺構。平安時代前期～後期の西堀川小路、西堀川。	2
3	右京五条二坊・六条二坊	立会	右京区西院矢掛町30地内～高田町地内	1982.04.13～07.13	弥生時代中期の包含層(竪穴住居跡?)。平安時代以降の道祖川流路。	3
4	右京五条二坊五町	発掘	中京区壬生西桜町8-9	1980.10.15～10.31	平安時代の西堀川・東側溝・路面・築地跡・内溝、木棺墓、土坑、土坑墓。近世の旧耕土。	4
5	右京六条一坊十一・十四町	発掘	下京区中堂寺粟田町地内	1995.04.10～12.01	縄文時代～古墳時代以前の河跡。古墳時代の河跡。平安時代の建物、柵、井戸、土坑、河跡。鎌倉時代の西櫛司小路西側溝?。近世以降の暗渠、競馬場濠。	5
6	右京六条一坊十二・十三町、七条一坊十六町	発掘	下京区中堂寺粟田町1	1989.03.28～06.07	弥生時代～古墳時代の湿地(河川跡を含む)。平安時代の柱跡。平安時代後期の六条大路北側溝。江戸時代の土取穴、暗渠。	6
7	右京六条一坊十二・十三町	発掘	下京区中堂寺粟田町1	1989.07.20～1990.05.30	平安時代の柱穴、井戸。平安時代～近代の溝、土坑。建物跡、井戸、西櫛司小路東側溝、門跡。	7
8	右京六条一坊十三町	発掘	下京区中堂寺粟田町1	1991.11.18～1992.03.07	縄文時代～弥生時代の旧流路跡。平安時代の掘立柱建物、柵、溝、井戸、湿地状遺構。近世以降の暗渠、土坑。	8
9	右京六条一坊十三・十四町	発掘	下京区中堂寺粟田町1	1992.07.13～1993.01.14	縄文時代～弥生時代の河跡。古墳時代の河跡。平安時代の掘立柱建物、楊梅小路路面・側溝、土坑、門跡?。	9
10	右京六条一坊十三町	発掘	下京区中堂寺粟田町地内	1996.09.02～12.28	平安時代の建物、溝、池。近世以降の暗渠、土取穴、競馬場濠。	10
11	右京六条一坊十四町	発掘	下京区中堂寺粟田町地内	1994.08.29～1995.02.24	古墳時代～平安時代後期の河川旧流路。平安時代前期の掘立柱建物、井戸、溝、柵。近世以降の土坑、溝。	11
12	右京六条一坊十四町、二坊三・六・十一町	試掘	下京区中堂寺粟田町～右京区西院南高田町	2006.09.20～09.21	(b) 西鞠負小路西側溝か(二時期)、柱穴。(c) 平安時代の東西溝、土器埋納遺構(柱穴か)、中世の南北溝。	12
13	右京六条二坊二町	発掘	中京区壬生東高田町1-2(京都市立病院)	1988.10.07～1989.01.10	弥生時代の溝。平安時代前期の掘立柱建物、南北溝、井戸、土坑。中世の建物、東西溝。	13
14	右京六条二坊三町	立会	下京区西七条東御前田町24、赤社町20-1	2006.06.30	地表下1.18mで平安時代中期の包含層、土師器皿。1.35mで黄褐色砂礫の流れ堆積。1.6mで暗灰黄色砂礫の地山。	14
15	右京六条二坊三町	発掘	下京区西七条東御前田町	2006.11.28～2007.03.19	平安時代の池、溝、土坑、柱穴。室町時代～江戸時代の耕作溝。近代の耕作溝。	15
16	右京六条二坊三町・六町	発掘	下京区西七条赤社町、西七条御前田町	2007.08.21～12.21	平安時代前期建物、一町内を四行八門制で区分する東西・南北小径、建物跡から土器埋納を多数確認。建物は10世紀初頭に廃絶。	16
17	右京六条二坊四町	立会	下京区西七条赤社町16	1987.06.11	地表下0.75mで平安時代前期～後期の流れ堆積。	17
18	右京六条二坊四町	試掘	下京区西七条東御前田町50	1989.05.19	地表下0.8mで平安時代後期の六条大路北側溝。	18
19	右京六条二坊五町	試掘	下京区西七条東御前田町13・14～御前田町31	1988.02.15	地表下0.8mで浅いシルト層が全域に堆積。平安時代前期の土師器、瓦。	19
20	右京六条二坊五町	立会	下京区西七条東御前田町6-4	1990.07.19	平安時代の可能性がある層。	20
21	右京六条二坊六町	立会	下京区西七条御前田町14-1・2	1981.03.20・26	地表下0.6mで落込み。平安時代の布目平瓦片、土師微片。	21
22	右京六条二坊六町	試掘	下京区西七条御前田町22	1985.10.4	地表下0.9mで遺物包含層。	22
23	右京六条二坊六町	試掘	下京区西七条御前田町24-2	1989.02.02	地表下1.5mで平安時代前期の井戸。曲物内には黒色土器。湿地状堆積。	18
24	右京六条二坊六・十一町	発掘	右京区西院南高田町、下京区西七条東御前田町	2007.03.27～08.03	平安時代前期の新田2時期の建物配置、溝・土坑・井戸、西堀川小路の東築地・東側溝・道路・西堀川。室町～江戸時代の耕作溝。	23
25	右京六条二坊六町	発掘	下京区西七条御前田町	2008.03.17～05.27	縄文時代落込み。弥生～古墳時代の土坑群。平安時代の掘立柱建物・柵列・通路・土坑・溝。室町時代以降の耕作関連遺構。	本報告
26	右京六条二坊七町	発掘	中京区壬生東高田町1-2(京都市立病院)	1979.02.01～03.15	平安時代の溝(西鞠負小路側溝)、土坑。近世土坑。	24
27	右京六条二坊七町	立会	中京区壬生東高田町4-1	1989.09.18	平安時代中期の土師器、湿地状堆積。	18
28	右京六条二坊七町	試掘	中京区壬生東高田町2	1990.05.21	西堀川の流路堆積。砂礫上面に平安時代の遺物。近世の土師器。	20

No.	遺跡名	方法	所在地	調査期間	遺構	文献
29	右京六条二坊八町	発掘	中京区壬生東高田町(公害センター)	1976.11.20～12.27	古墳時代溝。平安時代中期包含層。室町時代溝(西鞆負小路側溝か)、柱穴。近世包含層。	24
30	右京六条二坊八町	発掘	中京区壬生東高田町1-2(朱七保育所)	1978.11.28～12.02	中世遺物包含層。	24
31	右京六条二坊九・十六町	立会	右京区松原通、佐井通～西大路通地内	1998.10.19～11.12	地表下0.67～1.38mで佐井川の堆積層。平安時代前期の鉢片。	25
32	右京六条二坊十町	発掘	右京区西院高田町34	1987.05.22～07.02	古墳時代流路。平安時代前期～中期の掘立柱建物、柵列、土坑、溝状遺構。鎌倉時代～室町時代の南北・東西小溝群。	26
33	右京六条二坊十町	立会	右京区西院南高田町34	1987.06.19	地表下0.3mで土坑。	17
34	右京六条二坊十一町	立会	右京区西院南高田町3	1982.03.02	溝状遺構。淡黄灰色砂泥層より須恵器片。	27
35	右京六条二坊十二・十三町	試掘	右京区西院中水町21-2、22-2	1992.06.05	地表下1mで推定野寺小路東側溝。	28
36	右京六条二坊十二・十三町	立会	右京区西院中水町21-1、22-1	1997.04.10～04.21	野寺小路の両側溝、路面整地土、2時期。平安時代後期の土師器、須恵器、布目瓦の細片。	29
37	右京六条二坊十五町	発掘	右京区西院寿町	1988.05.23～06.14	平安時代の道祖大路東築地・東側溝・道祖川。中世の溝、河川。	30
38	右京七条一坊十四町	発掘	下京区西七条御領町32(七条中学校)	1980.08.26～10.20	弥生時代の方形周溝墓、溝。平安時代の建物、井戸、戸、溝。	31
39	右京七条一坊十四町	発掘	下京区西七条御領町32(七条中学校)	1997.09.24～1998.03.09	平安時代の掘立柱建物、井戸、柵列、溝、土坑。西櫛笥小路西側溝。	32
40	右京七条二坊一町	試掘	下京区西七条東御前田町49	1981.07.21	地表下0.6mで平安時代中期の包含層。	27
41	右京七条二坊二・七・十町	立会	下京区西七条掛越町～東石ヶ坪町	1998.09.02～11.19	地表下0.4mで平安時代の包含層。土師器、須恵器。0.9mで流れ堆積。	25
42	右京七条二坊七町	発掘	下京区西七条西石ヶ坪町40	1983.04.20～05.14	平安時代中期～後期の溝(西堀川小路東側溝・東側築地内溝)、柱穴、土坑。鎌倉時代～室町時代の溝、包含層、土坑。近代～現代の溝、柱穴、杭列、土坑。	33
43	右京七条二坊八町	発掘	下京区西七条西石ヶ坪町5(七条第三小学校)	1981.09.04～09.21	古墳時代流路。平安時代中期東西溝。	34
44	右京七条二坊八町	立会	下京区西七条東御前田町地先	1983.04.18	地表下1.26mで平安時代包含層。	35
45	右京七条二坊十町	発掘	下京区西七条比輪田町5-1、5-2、5-3	1990.07.06～09.20	飛鳥時代～奈良時代の自然流路。平安時代前期の掘立柱建物、柵列、土坑、土坑状遺構、井戸跡。平安時代後期～鎌倉時代前期の東西・南北方向小溝群。鎌倉時代～室町時代の東西小溝群。桃山時代～江戸時代の東西小溝群。	36
46	右京七条二坊十四町	立会	下京区西七条名倉町～比輪田町地先	1997.03.11～03.27	地表下0.3mで平安時代中期包含層。0.9mで湿地状堆積。	37
47	右京七条二坊十五町	発掘	下京区西七条名倉町14・15、比輪田町16	1988.05.10～07.27	古墳時代河川。平安時代の掘立柱建物、柵列、井戸、溝、土坑、ピット、河川。中世以降の溝。	38

※ 表に掲載した調査は、復元された平安京の条坊において、北が高辻小路、東が西櫛笥小路、南が北小路、西が道祖大路に囲まれた範囲のものである。立会調査や試掘調査は実施件数も多く、何らかの成果(遺構・遺物)があったものだけを掲載した。

※ 表の項目は、条坊を基準として並べ、同一町内のもは調査期間の古いものから並べた。調査位置が図上で大きく離れるものは、試掘・発掘については、a・bなどの下位記号を付けて図上に提示し、立会については、ほぼ中心となる地点を提示するにとどめた。

文献(表1 周辺既往調査一覧表)

- 1 本 弥八郎「平安京右京五条一坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 2 百瀬正恒「右京五条二坊・六条二坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(試掘・立会調査編)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 3 百瀬正恒「右京五条二坊・六条二坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 4 堀内明博「平安京右京五条二坊」『平安京跡発掘調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター 1981年
- 5 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 6 長宗繁一「平安京右京六・七条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 7 長宗繁一「平安京右京六条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 8 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 9 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 10 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1998年
- 11 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 12 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 13 網 伸也「平安京右京六条二坊1」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 14 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 15 小檜山一良『平安京右京六条二坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-25 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 16 小檜山一良・能芝 勉・尾藤徳行・布川豊治『平安京右京六条二坊三・六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-14 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2008年
- 17 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年
- 18 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
- 19 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局 1989年
- 20 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局 1991年
- 21 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター 1981年
- 22 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年
- 23 小檜山一良・布川豊治・能芝 勉・尾藤徳行『平安京右京六条二坊六・十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-3 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 24 『史料京都の歴史 第2巻考古』平凡社 1983年
- 25 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』京都市文化市民局 1999年
- 26 堀内明博「平安京右京六条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 27 「調査概要一覧表」『京都市内遺跡試掘・立会調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局 1982年
- 28 「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成4年度』京都市文化観光局 1993年
- 29 尾藤徳行・吉本健吾「右京六条二坊十二・十三町」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年
- 30 吉崎 伸「平安京右京六条二坊2」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 31 財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』角川書店 1994年
- 32 桜井みどり「平安京右京七条一坊」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 33 平田 泰・丸川義広「右京七条二坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和58年度』京都市文化観光局 1984年
- 34 前田義明「右京七条二坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年

3. 遺 構

(1) 基本層序

調査区の北側では表土下約 0.5 m、南側では 1.0 mまで現代の整地・盛土層があり、以下に約 0.2 mの室町時代以降の耕作土層が堆積する。耕作土層下は、にぶい黄褐色砂礫または暗黄灰色泥土の地山となる。南西部では、縄文時代晩期の落込み内堆積層である暗褐色から黒褐色を呈する泥土層が部分的に堆積している。調査区南端での地山層の標高は 24.1 mであった。

(2) 遺構の概要

縄文時代から江戸時代の遺構は、全て耕作土層の下で検出した。主な遺構には、平安時代前期の掘立柱建物・柵・溝・通路などがある。それ以外には、縄文時代晩期の落込み、弥生時代から古墳時代と推定される不定形の土坑群、さらに江戸時代の耕作関連の溝などがある。ここでは、室町時代以降（第1面）、平安時代（第2面）、弥生時代から古墳時代（第3面）、縄文時代（第4面）に分けて調査を実施した。

検出した遺構について、以下に記述する。

(3) 遺構

第1面の遺構（図7、図版1）

室町時代以降の耕作に関連する遺構がある。耕作溝には近代以降のものもあるが、出土遺物が江戸時代以前に限定できるものを遺構として調査した。

溝1・4・7～12 主に調査区の西側で検出した南北方向の溝である。幅は0.5 m前後、深さは0.1～0.2 mある。埋土はにぶい黄褐色から暗褐色の砂泥を主体とする。南北約 25 mにおよぶ溝1を始めに、溝10～12など南北方向の溝が多い。耕作に関連する溝とみられる。

溝3・16・17 東西方向の溝である。幅は0.5 m前後、深さは0.1～0.2 mある。埋土は灰黄褐色砂泥を主体とする。3次調査の1区で検出した東西方向の溝の延長である。耕作に関連する

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
江戸時代	溝1・3・4・7～12・16・17など、土坑14・15、段差A	耕作に関連する溝
室町時代	耕作土	
平安時代前期	掘立柱建物1・2、柵3～7、溝29・30・33、通路Bなど	溝29は北二・三門境、通路は小径
弥生時代 ～古墳時代	土坑54～60・62～64・67～82・85～115	不定形土坑
縄文時代晩期	落込み117、溝118	中期・後期の土器も含む

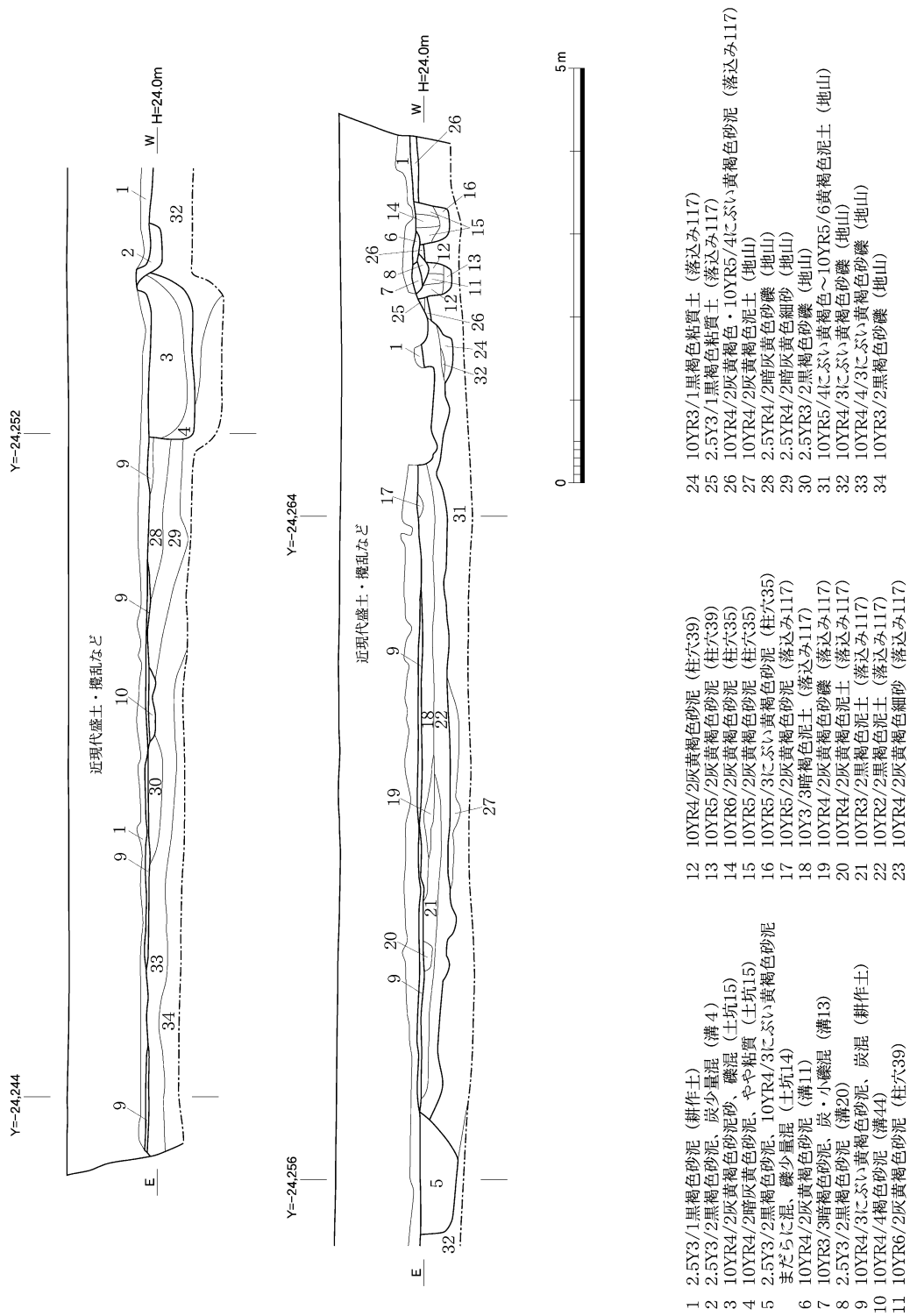


図6 南壁断面図 (1 : 80)

- | | | | | | |
|----|---|----|------------------------|----|--------------------------------------|
| 1 | 2.5Y3/1黒褐色砂泥 (耕作土) | 12 | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (柱穴39) | 24 | 10YR3/1黒褐色粘質土 (落込み117) |
| 2 | 2.5Y3/2黒褐色砂泥、炭少量混 (溝4) | 13 | 10YR5/2灰黄褐色砂泥 (柱穴39) | 25 | 2.5Y3/1黒褐色粘質土 (落込み117) |
| 3 | 10YR4/2灰黄褐色砂泥、礫混 (土坑15) | 14 | 10YR6/2灰黄褐色砂泥 (柱穴35) | 26 | 10YR4/2灰黄褐色・10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 (落込み117) |
| 4 | 10YR4/2暗灰黄色砂泥、やや粘質 (土坑15) | 15 | 10YR5/2灰黄褐色砂泥 (柱穴35) | 27 | 10YR4/2灰黄褐色泥土 (地山) |
| 5 | 2.5Y3/2黒褐色砂泥、10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
まだらに混、礫少量混 (土坑14) | 16 | 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 (柱穴35) | 28 | 2.5YR4/2暗灰黄色砂泥 (地山) |
| 6 | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (溝11) | 17 | 10YR5/2灰黄褐色砂泥 (落込み117) | 29 | 2.5YR4/2暗灰黄色細砂 (地山) |
| 7 | 10YR3/3暗褐色砂泥、炭・小礫混 (溝13) | 18 | 10Y3/3暗褐色泥土 (落込み117) | 30 | 2.5YR3/2黒褐色砂泥 (地山) |
| 8 | 2.5Y3/2暗褐色砂泥 (溝20) | 19 | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 (落込み117) | 31 | 10YR5/4にぶい黄褐色～10YR5/6黄褐色泥土 (地山) |
| 9 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、炭混 (耕作土) | 20 | 10YR4/2灰黄褐色泥土 (落込み117) | 32 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 (地山) |
| 10 | 10YR4/4褐色砂泥 (溝44) | 21 | 10YR3/2黒褐色泥土 (落込み117) | 33 | 10YR4/4/3にぶい黄褐色砂泥 (地山) |
| 11 | 10YR6/2灰黄褐色砂泥 (柱穴39) | 22 | 10YR2/2黒褐色泥土 (落込み117) | 34 | 10YR3/2黒褐色砂泥 (地山) |
| | | 23 | 10YR4/2灰黄褐色細砂 (落込み117) | | |

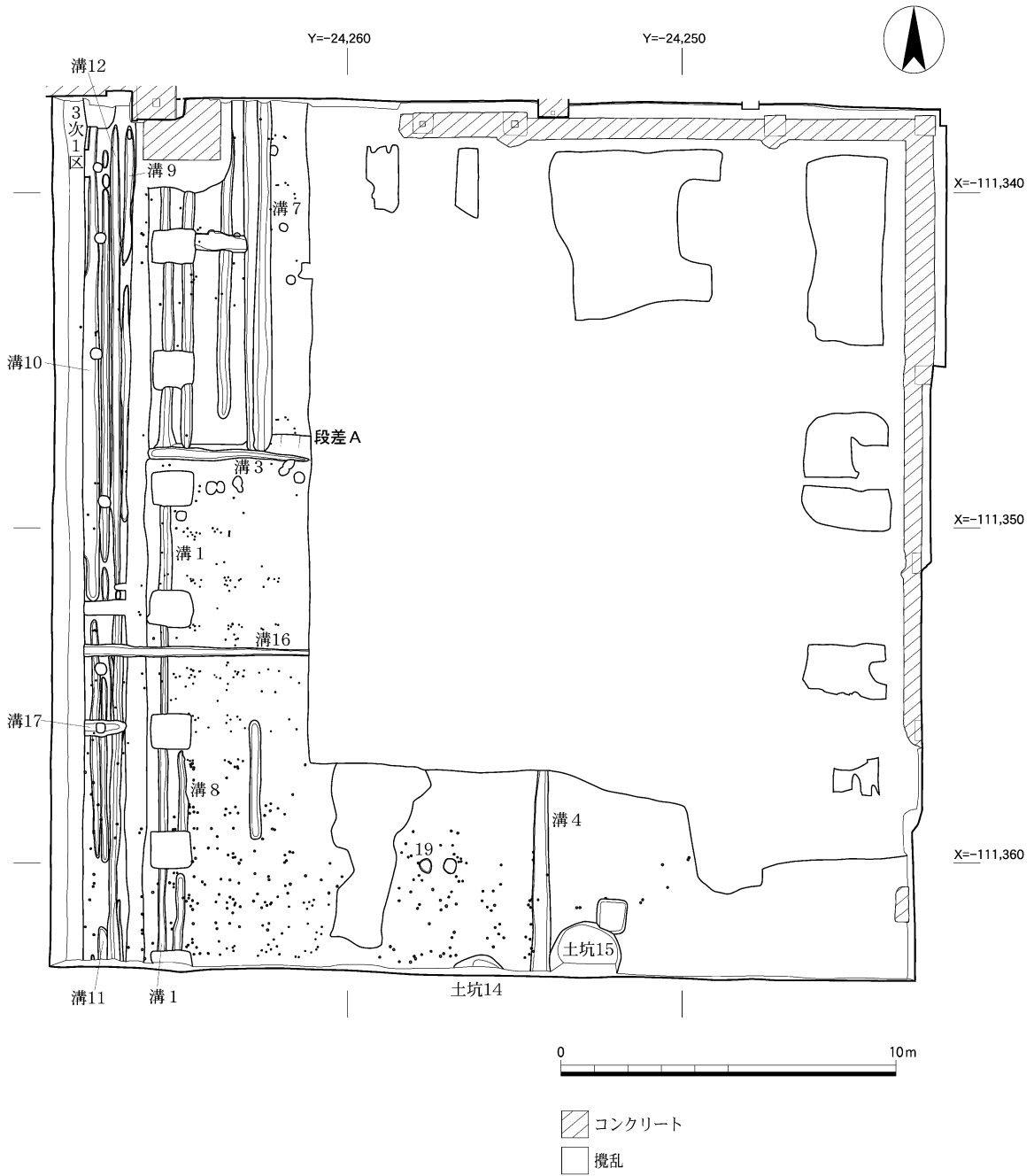


図7 第1面遺構平面図 (1:200)

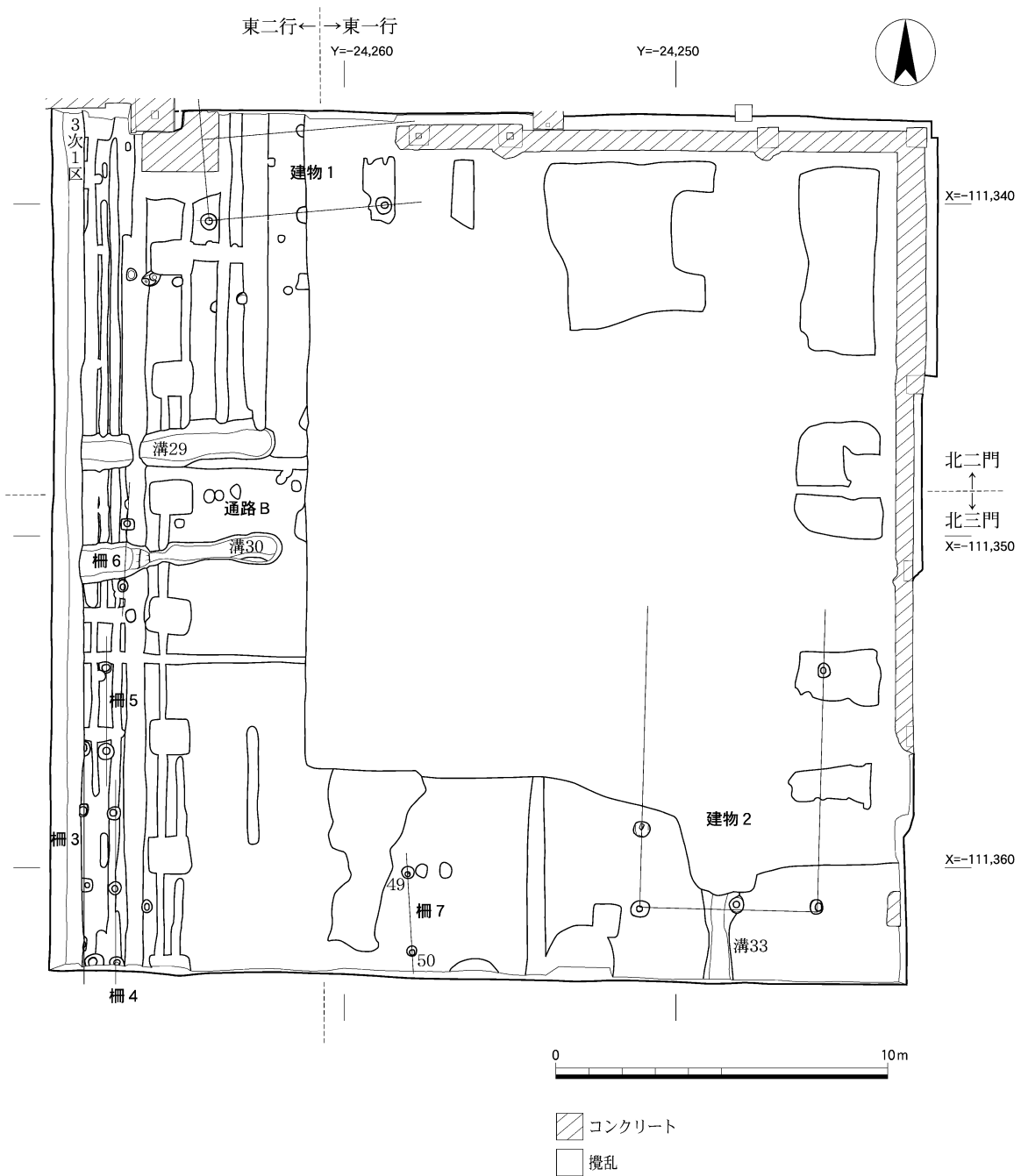
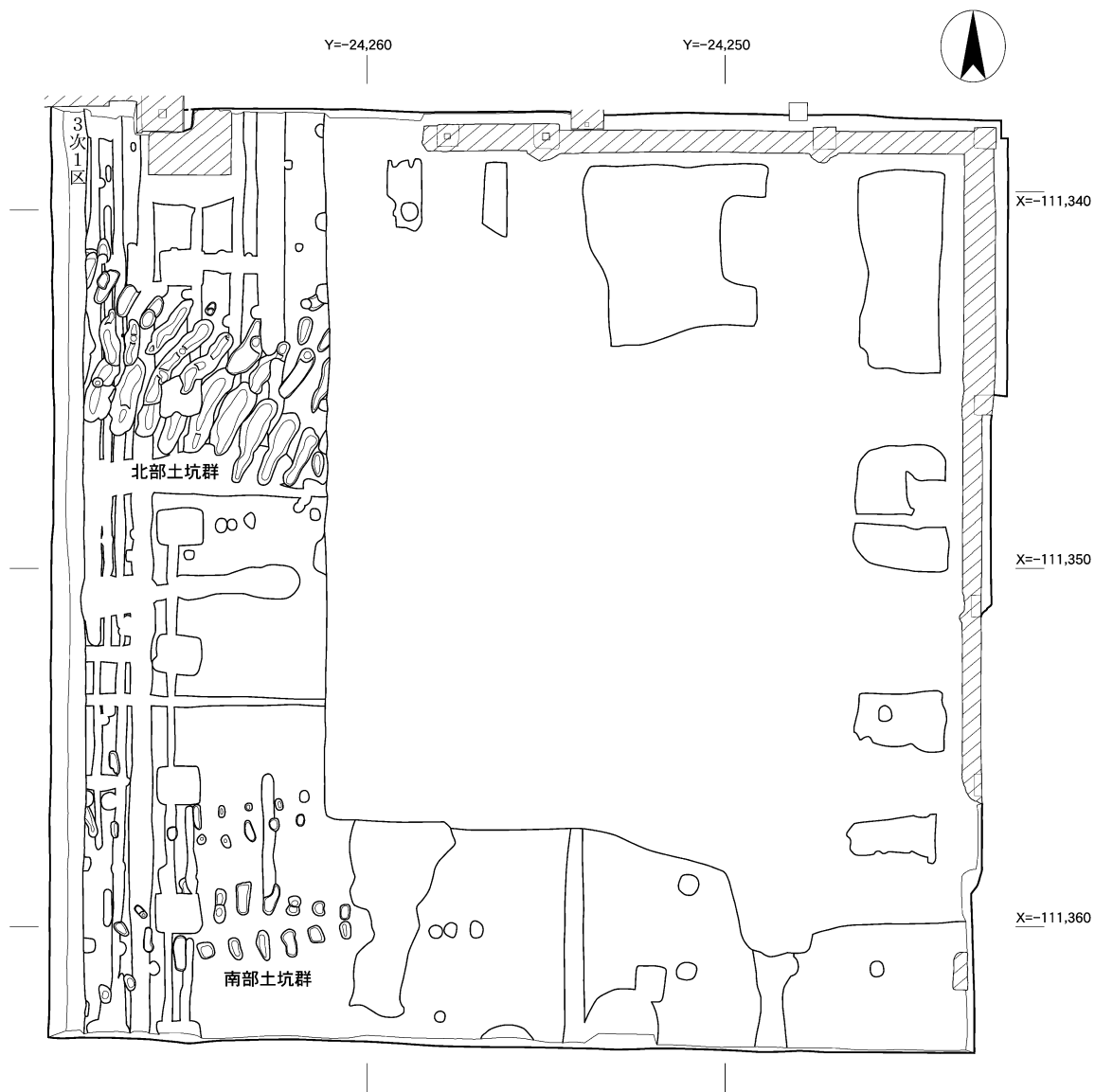


図8 第2面遺構平面図 (1:200)



※ 土坑群の遺構番号は図15に記載している。





-  コンクリート
-  攪乱

図9 第3面遺構平面図 (1:200)

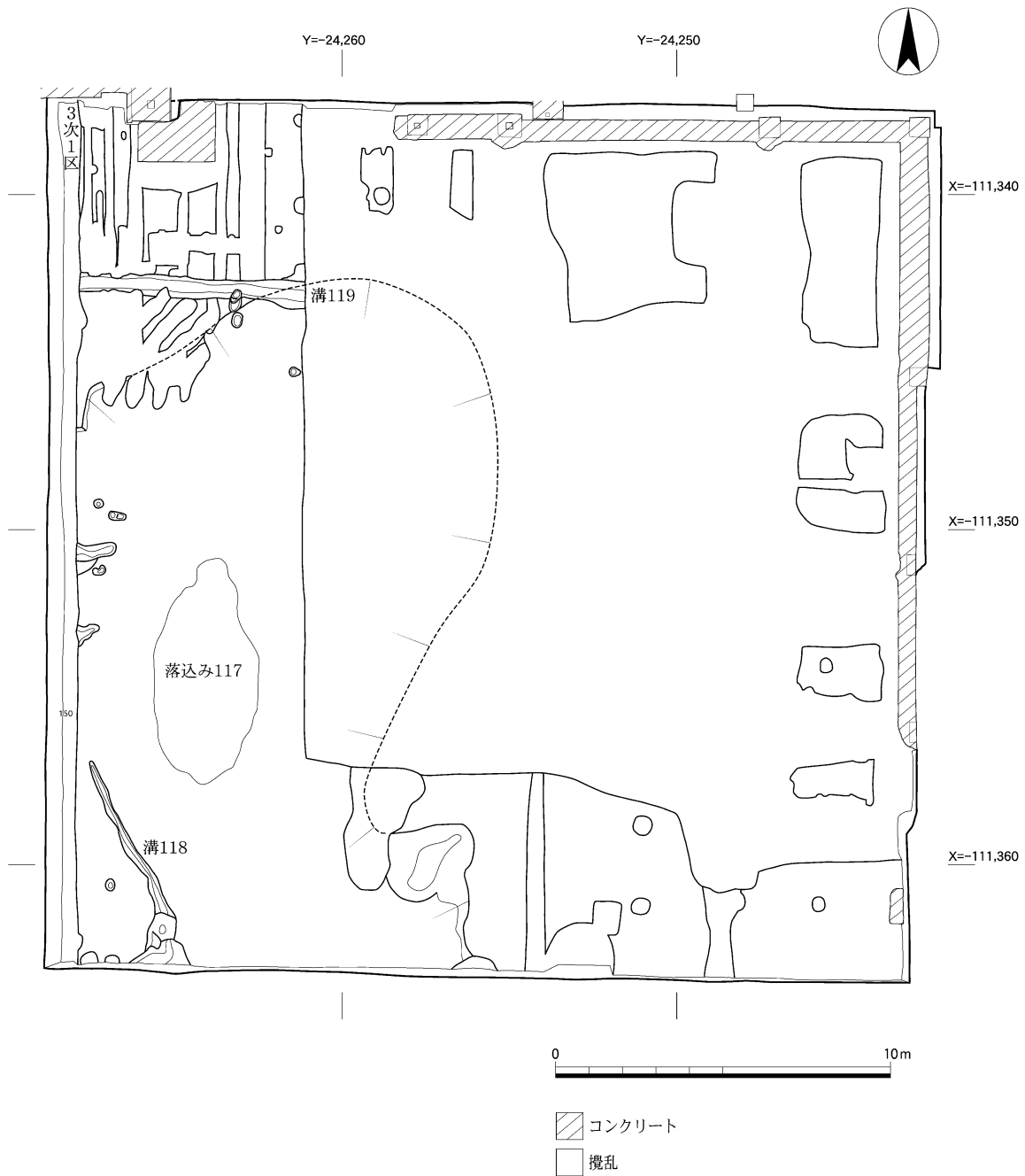


図10 第4面遺構平面図（1：200）

溝とみられる。

土坑 14 南部中央で検出した。南半は調査区外に広がり、平面形は円形を呈するとみられる。直径は約 1.7 m と復元する。深さは 0.5 m ある。埋土は黄褐色砂泥で、0.05 m 大の礫を多く含む。耕作に関連する遺構と見られる。

土坑 15 土坑 14 の東側で検出した。南半は調査区外に広がり、平面形は円形を呈するとみられる。直径は約 2.2 m と復元する。深さは 0.6 m ある。埋土はにぶい黄褐色砂泥で、0.1 m 大の礫を多く含む。桶と見られる木質が部分的に残存する。肥溜めとみられる。

段差 A 東西溝 3 の北側で、高さ約 0.2 m の北側が高い段差を検出した。南側は 0.1 m ほど掘り下げられ、一方北側には 0.1 m ほどの盛土を施している。北側と南側にそれぞれ平坦面を造成している。耕作地の造成とみられる。

杭跡 調査区内には径 5 cm ほどの杭跡が多数みられるが、特に南部一帯に集中している。

第 2 面の遺構（図 8、図版 1）

平安時代前期の遺構群である。南北方向・東西方向の掘立柱建物、南北方向の柵、南北方向・東西方向の溝などがある。

溝 29（図 14、図版 2） 調査区中央で検出した東西方向の溝である。幅 0.8 ～ 1.3 m、深さ 0.1 ～ 0.3 m ある。東西約 6 m にわたって検出した。東でやや北に振れる傾きをもつ。検出した位置は、北二・三門境のやや北にあたる。9 世紀後半代の遺物が出土した。3 次調査 1 区の溝 9 の延長である。

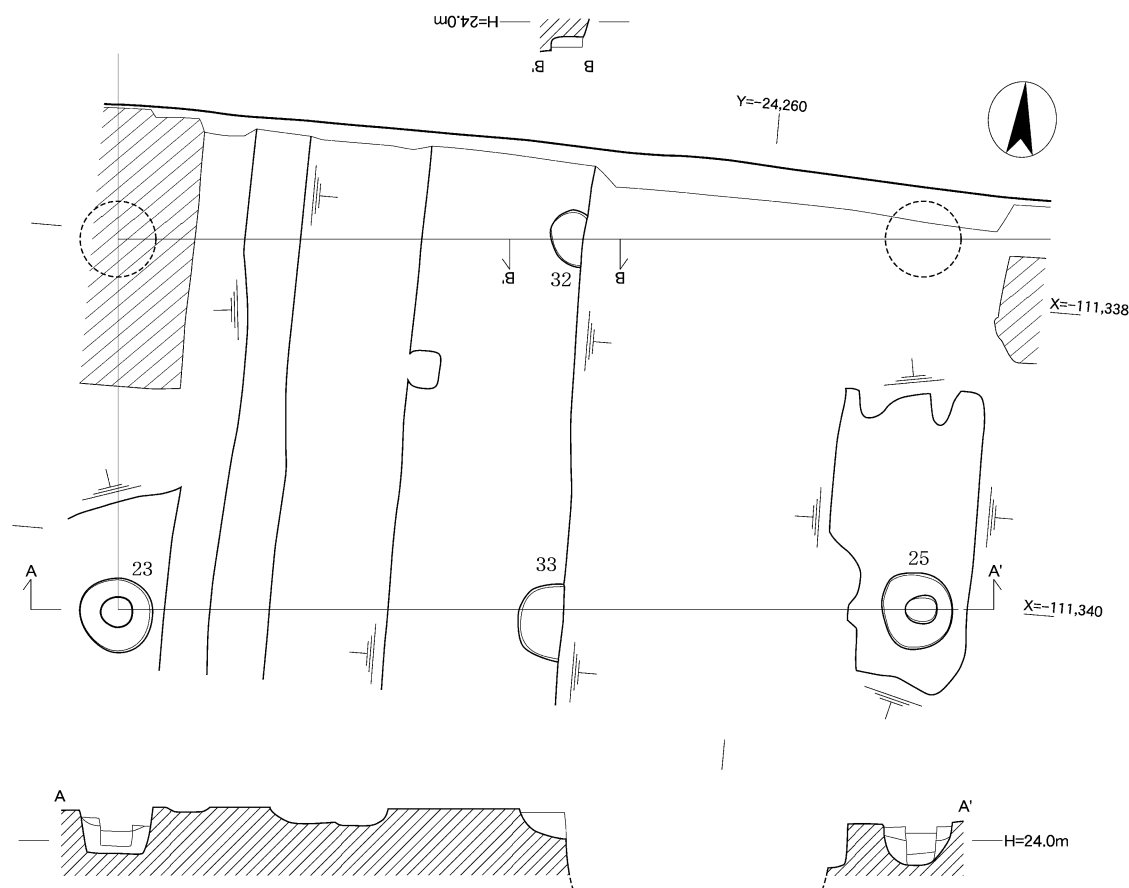
溝 30（図 14、図版 2） 調査区中央で検出した東西方向の溝である。幅 0.5 ～ 1.2 m、深 0.1 ～ 0.4 m、東西約 6 m にわたって検出した。溝 29 の約 3.3 m 南側を並行する。9 世紀後半代の遺物が出土した。3 次調査 1 区の溝 39 の延長である。

通路 B（図 14、図版 2） 調査区中央で検出した東西方向の溝 29 と溝 30 に挟まれた箇所である。北二・三門境に位置することから東西方向の通路とした。両溝の心心間は 3.3 m、通路幅は 2.2 ～ 2.3 m ある。上部は削平されている。東西方向の小径と考えられる。

建物 1（図 11） 調査区北西部で検出した掘立柱建物である。柱穴 23・25・32・22・33 からなる東西 2 間以上、南北 1 間分を検出した。柱穴掘形は径 0.5 m の円形で、深さは約 0.3 m ある。梁行方向の柱間は西側が約 2.9 m、東側で約 2.4 m ある。東西棟の南庇部分とみられる。建物は調査区北に延びるとみられ、東部は攪乱に削平されているが、さらに東に延びるとみられる。柱筋は東側でやや北に振る傾きとなる。

建物 2（図 12、図版 2） 調査区南東部で検出した掘立柱建物である。柱穴 44 ～ 48 からなる東西 2 間、南北 3 間以上の南北棟である。柱穴掘形は径約 0.4 m の円形で、深さは約 0.1 ～ 0.3 m ある。梁行方向の柱間は 2.4 m ある。桁行方向の柱間は 3.0 m・2.5 m ある。建物の北部は攪乱に削平されているが北に延びるとみられる。柱筋はほぼ南北方向である。

柵 3（図 13、図版 2） 西部南で検出した南北方向に並ぶ柱穴列である。柱穴 36 ～ 38・51 の 4 基からなる。柱穴掘形は径約 0.4 m の円形で、深さは約 0.1 ～ 0.3 m ある。間隔は南から 1.8 m・2.3



柱穴23	柱当り	10YR4/3にぶい黄褐色砂泥	柱穴32	10YR5/2灰黄褐色砂泥
	掘形上層	10YR4/6褐色砂泥	柱穴33	10YR6/3にぶい黄橙色砂泥
	掘形下層	10YR4/4褐色砂泥		
柱穴25	柱当り上層	10YR5/2~5/3灰黄褐色~にぶい黄褐色砂泥		
	柱当り下層	10YR5/3にぶい黄褐色砂泥		
	掘形上層	10YR4/3~5/3にぶい黄褐色砂泥		
	掘形下層	10YR5/3にぶい黄褐色砂泥		

図 11 建物 1 実測図 (1 : 50)

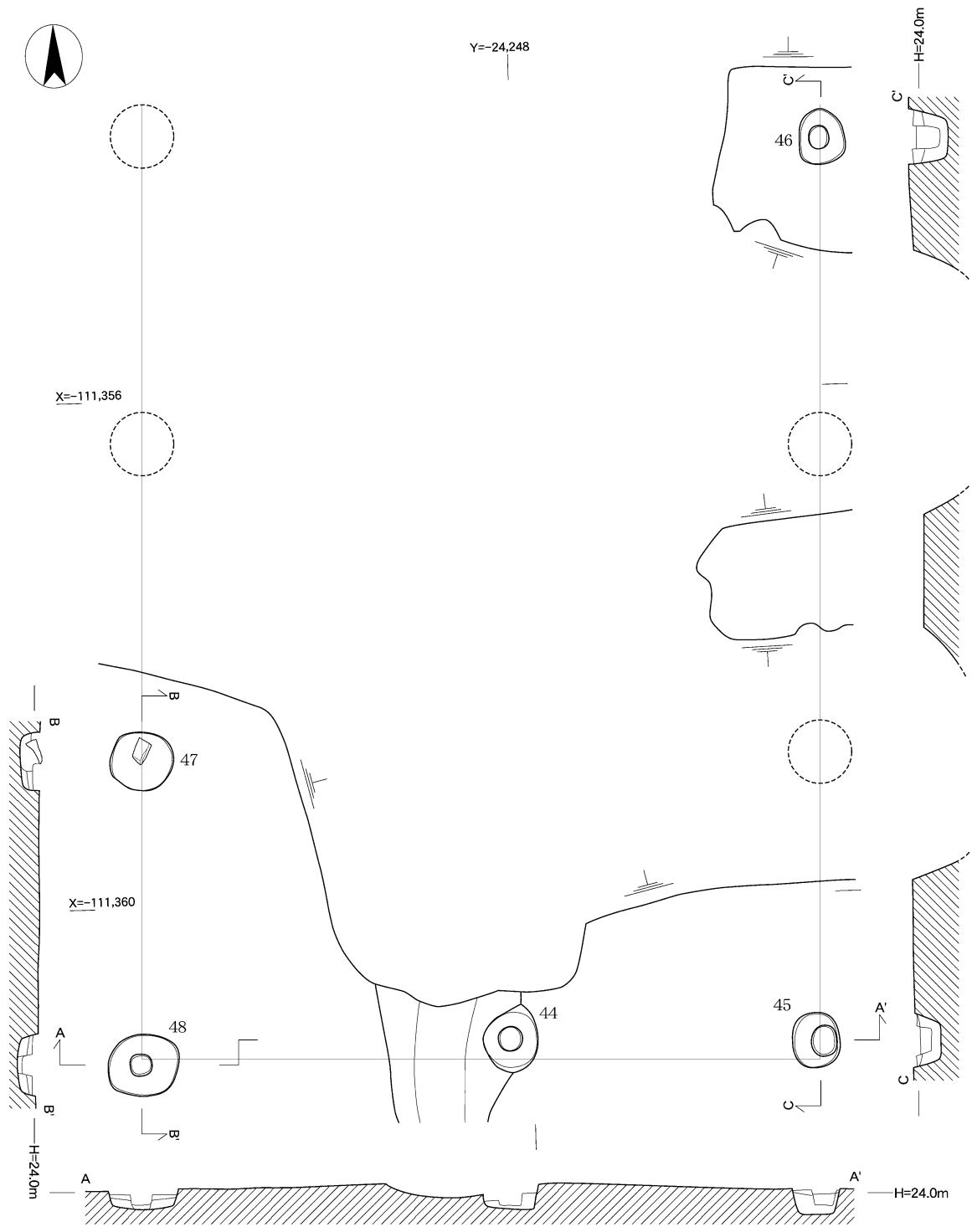
m・1.9 mある。3次調査 1 区で検出した柱穴の東半を検出している。柱筋はほぼ南北方向を示す。

柵 4 (図 13、図版 2) 柵 3 の東側で検出した。柱穴 39 ~ 41 の 4 基からなる。柱穴掘形は径約 0.4 m の円形で、深さは約 0.2 ~ 0.3 m である。間隔は南から 2.2 m ・ 2.3 m である。柵 3 の約 0.8 m 東に位置し、柱筋はほぼ同様の傾きをもつ。

柵 5 (図 13、図版 2) 西部南で検出した南北方向に並ぶ柱穴列である。柱穴 42 ・ 43 からなる。柱穴掘形は径約 0.5 m の円形で、深さは約 0.3 ~ 0.4 m である。間隔は約 2.5 m である。柵 3 と 4 の間に位置し、柱筋はほぼ同様の傾きをもつ。

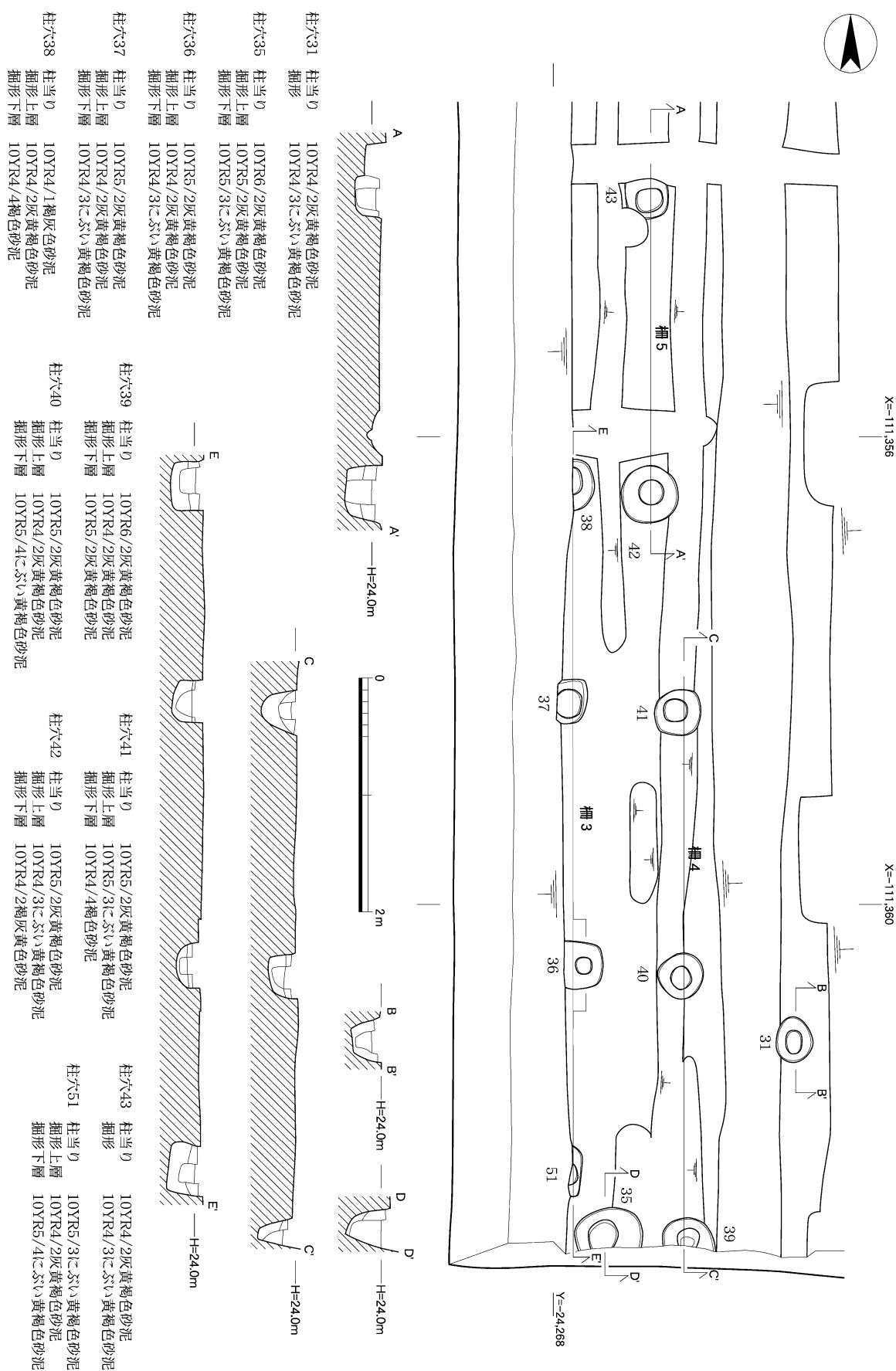
柵 6 (図 14、図版 2) 西部で検出した南北方向に並ぶ柱穴列である。柱穴 28 ・ 53 からなる。柱穴掘形は径約 0.4 m で、深さは約 0.3 ~ 0.4 m である。間隔は約 1.9 m である。柱筋は北側でわずかに東に振る傾きとなる。

柵 7 (図版 2) 南部中央で検出した南北方向に並ぶ柱穴列である。柱穴 49 ・ 50 からなる。柱穴掘形は径約 0.4 m で、深さは約 0.3 ~ 0.4 m である。間隔は約 1.9 m である。柱筋は北側でわずかに西に振る傾きとなる。建物 2 の目隠し塀の可能性もある。



- | | | | | | |
|------|------|----------------------|------|------|------------------|
| 柱穴44 | 掘形 | 10YR4/4褐色砂泥、礫混 | | | |
| 柱穴45 | 柱当り | 10YR3/4暗褐色砂泥、礫多量混 | 柱穴47 | 柱当り | 10YR6/3にぶい黄橙色砂泥 |
| | 掘形上層 | 10YR3/3暗褐色砂泥、礫混 | | 掘形上層 | 10YR5/2灰黄褐色砂泥 |
| | 掘形下層 | 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、礫多量混 | | 掘形下層 | 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 |
| 柱穴46 | 柱当り | 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 | 柱穴48 | 柱当り | 10YR6/2灰黄褐色砂泥、炭混 |
| | 掘形上層 | 10YR4/2灰黄褐色砂泥 | | 掘形上層 | 10YR6/3にぶい黄橙色砂泥 |
| | 掘形下層 | 10YR4/4褐色砂泥 | | 掘形下層 | 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 |

図 12 建物 2 実測図 (1 : 50)



柱六31 柱当り 10YR4/2灰黄褐色砂泥
掘形 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥

柱六35 柱当り 10YR6/2灰黄褐色砂泥
掘形上層 10YR5/2灰黄褐色砂泥
掘形下層 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥

柱六36 柱当り 10YR5/2灰黄褐色砂泥
掘形上層 10YR4/2灰黄褐色砂泥
掘形下層 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥

柱六37 柱当り 10YR5/2灰黄褐色砂泥
掘形上層 10YR4/2灰黄褐色砂泥
掘形下層 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥

柱六38 柱当り 10YR4/1褐色砂泥
掘形上層 10YR4/2灰黄褐色砂泥
掘形下層 10YR4/4褐色砂泥

柱六39 柱当り 10YR6/2灰黄褐色砂泥
掘形上層 10YR4/2灰黄褐色砂泥
掘形下層 10YR5/2灰黄褐色砂泥

柱六40 柱当り 10YR5/2灰黄褐色砂泥
掘形上層 10YR4/2灰黄褐色砂泥
掘形下層 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥

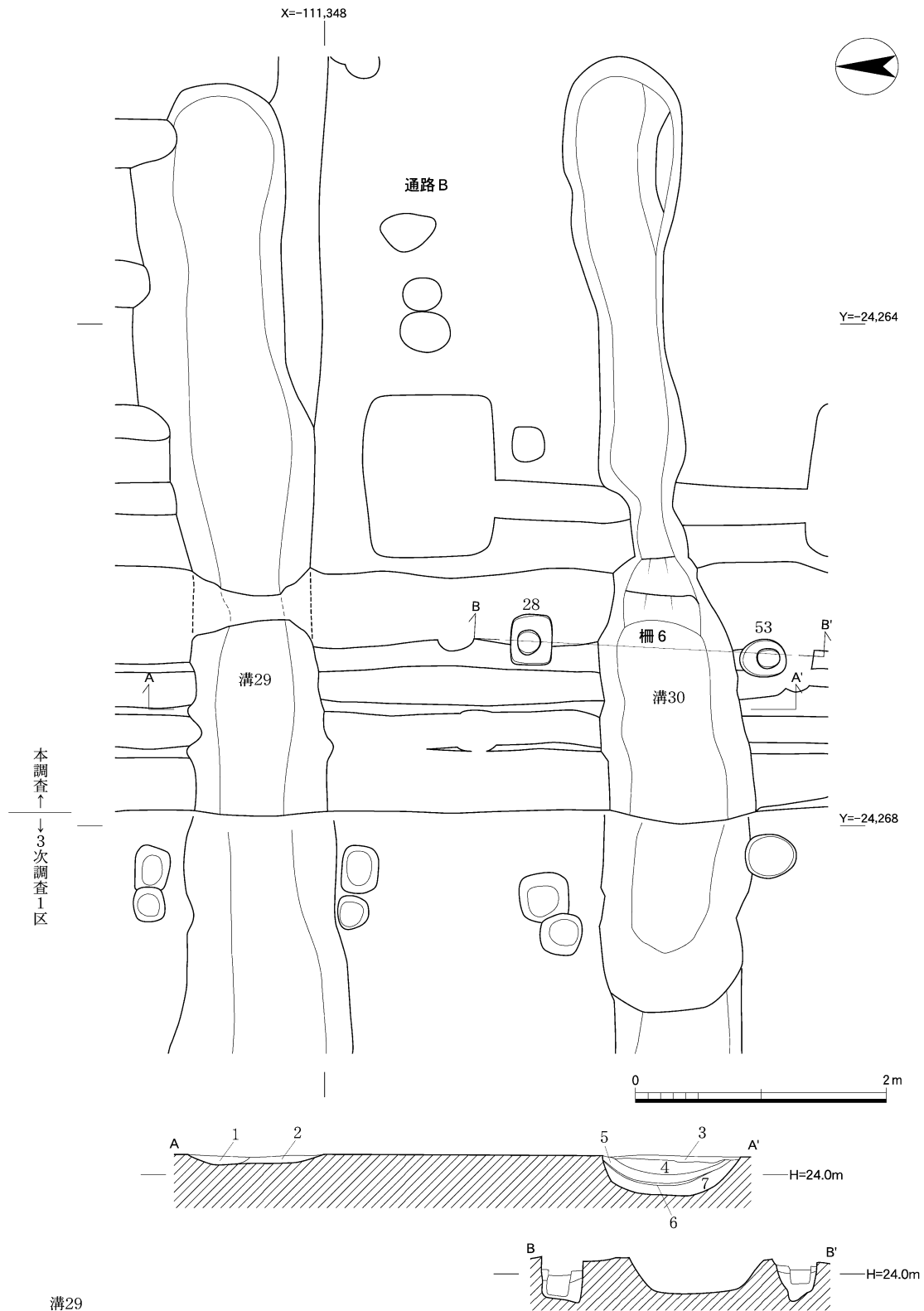
柱六41 柱当り 10YR5/2灰黄褐色砂泥
掘形上層 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥
掘形下層 10YR4/4褐色砂泥

柱六42 柱当り 10YR5/2灰黄褐色砂泥
掘形上層 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
掘形下層 10YR4/2褐色灰黄色砂泥

柱六43 柱当り 10YR4/2灰黄褐色砂泥
掘形 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥

柱六51 柱当り 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥
掘形上層 10YR4/2灰黄褐色砂泥
掘形下層 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥

図 13 柵 3 ~ 5 実測図 (1 : 50)



溝29

- 1 10YR5/2灰黄褐色砂泥
- 2 10YR5/2~5/3灰黄褐色~にぶい黄褐色砂泥

溝30

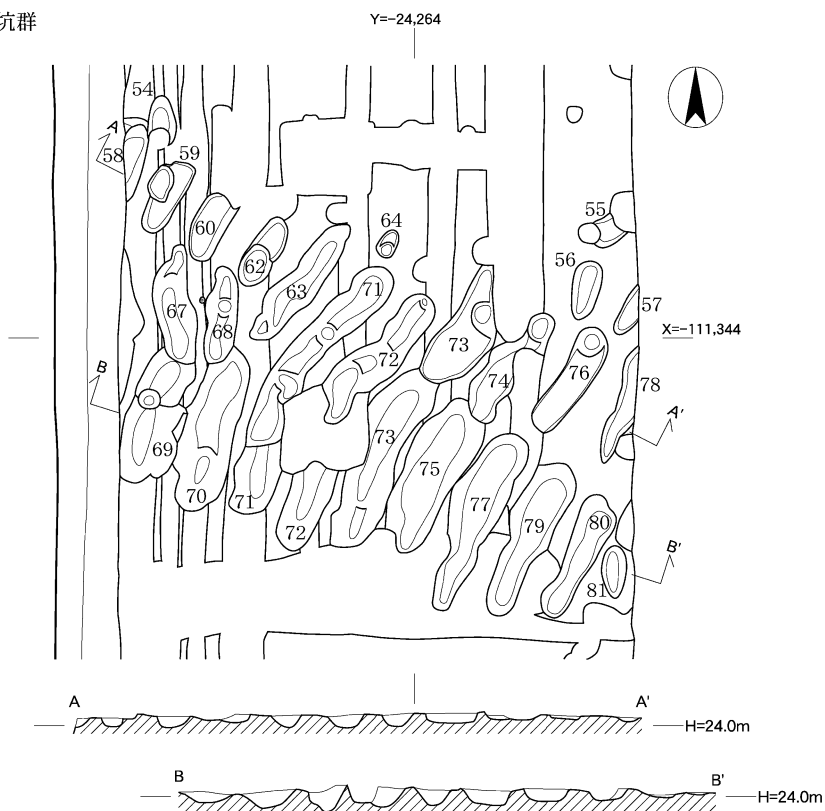
- 3 10YR4/3~5/3にぶい黄褐色砂泥
- 4 10YR5/2~5/3灰黄褐色~にぶい黄褐色砂泥
- 5 10YR5/2灰黄褐色砂泥
- 6 10YR4/2~5/2灰黄褐色砂泥、炭や多く混
- 7 10YR4/2~4/3灰黄褐色~にぶい黄褐色砂泥

- 柱穴28 柱当り 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 掘形上層 10YR4/4褐色砂泥
- 掘形下層 10YR4/2灰黄褐色砂泥

- 柱穴53 柱当り 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥
- 掘形上層 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 掘形下層 10YR4/4褐色砂泥

図14 溝29・30周辺実測図(1:50)

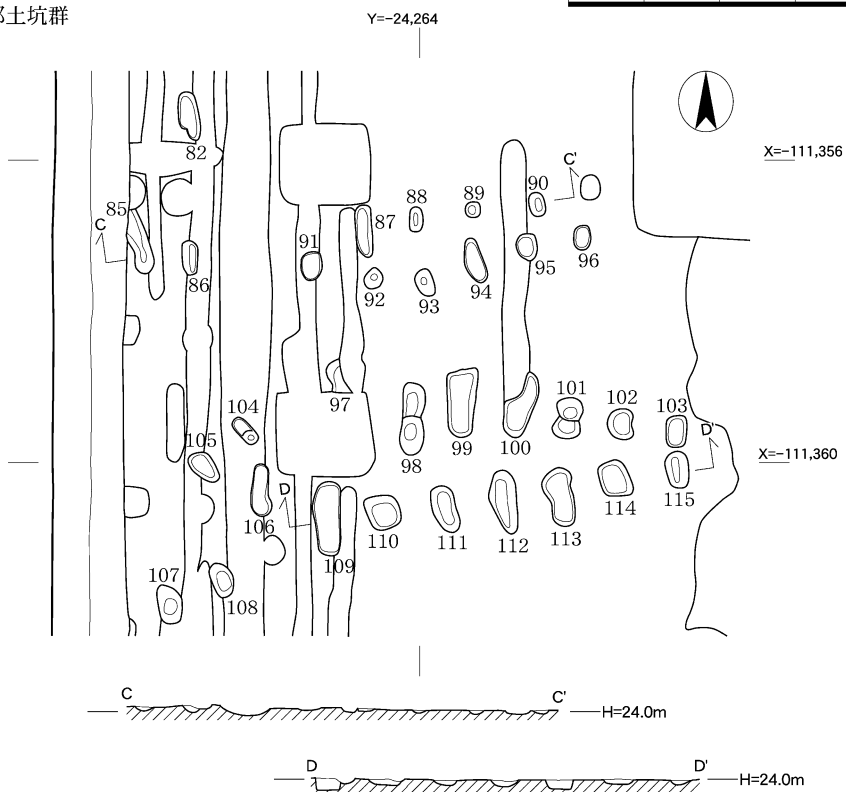
北部土坑群



北部土坑群埋土 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、礫少ない



南部土坑群



南部土坑群埋土 2.5Y5/2~5/3暗灰黄色~黄褐色泥砂、礫少ない、10YR5/8黄褐色まだらに混入

図 15 不定形土坑群実測図 (1 : 100)

第3面の遺構（図9）

弥生時代から古墳時代の遺構群である。南部と北部に土坑群が展開する。

土坑群（図15、図版3）54～60・62～64・67～81は、北部で検出した不定形の遺構である。南北方向の長さ2～4m、幅0.3～0.7m、深さ0.1～0.4mある。埋土はにぶい黄褐色砂泥である。互いに接するものが多いが、約0.2m離れて並ぶものもみられる。各々は北で東側に振れる傾きを持つ。全体には北西から南東方向に帯状に連続している。北部では、弥生時代から古墳時代の土器片を少量出土している。3次調査1区の東部土坑群と連続するものである。82・85～115は、南部で検出した同様の土坑である。こちらは上部が深く削平されているため底部のみが残存している。埋土は暗灰黄色から黄褐色の泥砂である。土器小片が少量出土する。3次調査では古墳時代後期の須恵器が出土している。遺構の性格は不明である。

第4面の遺構（図10）

縄文時代晩期の遺構である。南西部に落込み117がある。

落込み117（図16～18、図版3）南西部で検出した落込み状の遺構である。南北16m以上、東西10m以上、深さは最深部で0.8mある。埋土は暗褐色から黒褐色の泥土が主体である。中央部では小礫混じりの中層から縄文時代晩期の土器が出土している。また、埋土中からは中期から後期の土器類も出土している。3次調査1区で検出した土坑92の東側にあたる。

溝118（図18）落込み117内の南西部で検出した。北西から南東方向に蛇行して流れ、南側で幅が広がる。幅は0.2～1.6m、深さ0.05～0.25mある。埋土はにぶい黄褐色砂泥である。落込み117内の流路跡と考えられる。

溝119（図18）調査区の北部で検出した東西方向の溝である。幅は0.5～0.6m、深さ0.05～0.15mある。埋土はにぶい黄褐色から暗褐色の泥土である。弥生時代から古墳時代の土坑群に切られていることから第4面に掲載した。遺物が出土していないため時期は不明である。



図16 落込み117（南東から）



図17 縄文土器出土状況

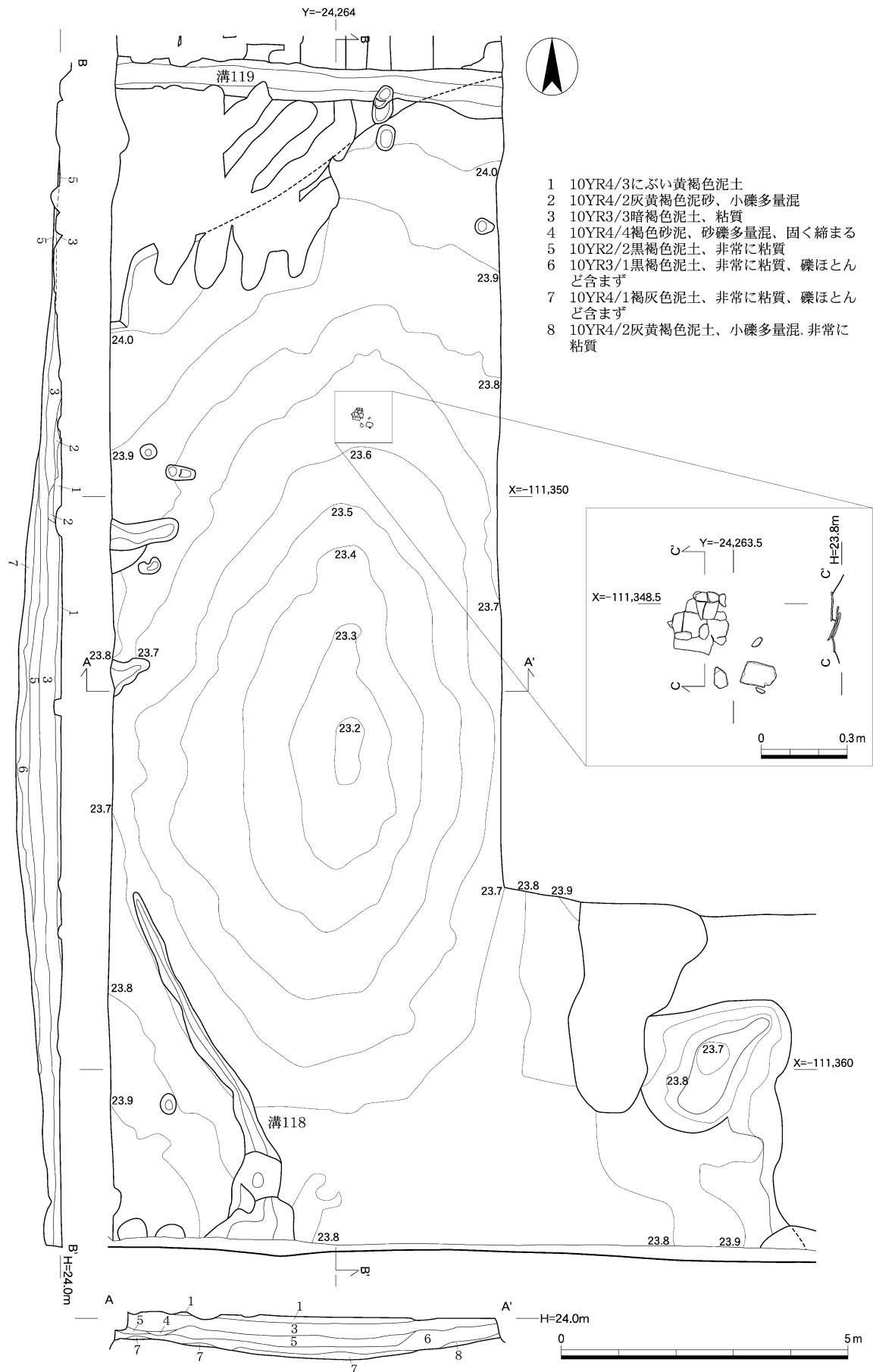


図18 落込み117、溝118・119実測図(1:100)

4. 遺 物

(1) 出土遺物の概要

縄文時代中期末以降から近世にわたる各時代の遺物が出土した。出土遺物は整理箱で10箱あり、その内訳は土器類、瓦類が主体である。

縄文時代の遺物は、落込み117から出土した。土器類の他に石器も含まれており、中期末から晩期末頃までの幅広い年代の遺物が混在していたが、出土量は多くない。

弥生時代の遺物は、土器類や石器片がある。土坑や整地土から小片が少量出土している。

古墳時代の遺物は、土師器、須恵器などがある。不定形の土坑から出土している。多くは平安時代以降の遺構に混入したものであり、小片がほとんどであった。

平安時代の遺物は、多くが前期のもので、土師器・黒色土器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器などの土器類・陶器類のほかに瓦類も含まれている。

中世から江戸時代の遺物には、国産の土器類・陶磁器類などがあるが、少量である。

(2) 出土遺物（図19、図版3）

落込み117出土遺物（1～6）1は大部分が欠損しているが、深鉢口縁部とみられる。隆帯を口縁端部から縦方向に貼り付け、さらに口縁から少し下がった位置に横方向の隆帯を付けて交差させている。隆帯によって区画された部分には、竹管状工具による刺突を4箇所にする。口縁部に近い2つの刺突は、器面に対してほぼ垂直であるが、その他のものは器面に平行で、隆帯の側面に対して垂直である。調整は、内外面共にナデとみられるが、磨滅が著しく詳細は不明である。縄文時代中期末の北白川C式とみられる。2は口径24.4cmの深鉢である。器面のほとんどで剥離が顕著であるが、口縁外面で繊維状工具によるケズリ、胴部内面でケズリのちナデ調整を確認す

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
縄文時代	縄文土器、石器、骨		縄文土器5点、石器1点		
弥生時代	弥生土器、石器片				
古墳時代	須恵器		須恵器1点		
平安時代	土師器、黒色土器、須恵器、 灰釉陶器、緑釉陶器、軒平 瓦、丸瓦、平瓦		土師器2点、須恵器1点、灰釉 陶器5点、緑釉陶器2点、軒平 瓦1点		
中世以降	土師器、瓦器、国産陶磁器、 輸入陶磁器、土製品、窯道 具		土師器1点、瓦器1点、国産陶 器2点、輸入磁器1点、土製品 1点、窯道具3点		
合 計		12箱	27点（2箱）	1箱	9箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より2箱多くなっている。

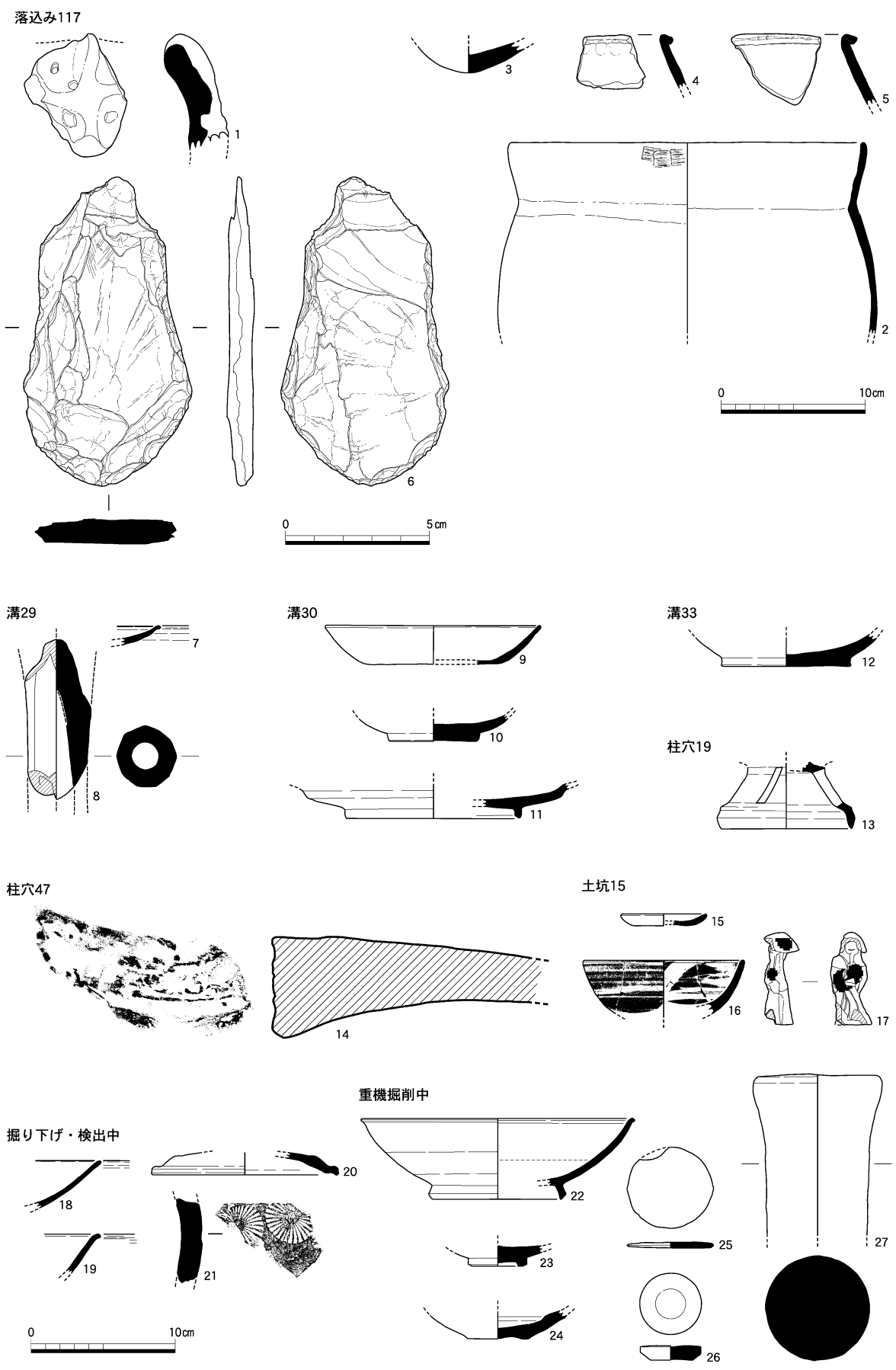


図19 出土遺物拓影・実測図（1と6は1：2、他は1：4）

ることができた。また、頸部に指1本分くらいのナデ痕跡が認められた。器形と頸部の調整から、縄文時代晩期中葉の滋賀里Ⅲa式と考えられる。3は深鉢底部である。残存高は2.2cm、調整は不明である。丸底であることから、縄文時代晩期中葉の篠原式から滋賀里Ⅳ式にかけてのものともみられる。4・5は、縄文時代晩期末の長原式土器深鉢口縁部である。どちらも細片のため、浅鉢の可能性もある。口縁端部を折り曲げて突帯を作る。調整は不明瞭であり、5については突帯状に小D字の刻みが認められたが、4については磨滅が著しいため有無は不明であった。ただし、突帯を付けた時のユビオサエの痕跡を突帯下部と器面で確認した。4・5共に、胎土は角閃石を多く含み、暗褐色を呈する、生駒西麓産と呼ばれているものである。6は石鋤形石製品である。長さ10.7cm、幅5.9cm、厚さ0.85cm、重さ67.22gを測る。材質は珪質頁岩である。石の摂理に沿って板状に割ったものに、柄や刃を作り出している。刃部とみられる部分には、両面からの著しい剥離痕跡と磨滅が認められる。刃潰しまたは使用痕とみられるが、詳細は不明である。時期は縄文時代晩期から弥生時代と考えられる。

溝29出土遺物(7・8) 出土遺物には土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・瓦類などがある。9世紀後半代の遺物である。灰釉陶器皿(7)は口縁部の小破片で、内面に透明感のある灰釉が均一に施釉されている。土師器高杯の脚部(8)は断面9角形に面取りされる。焼成は軟質で、表面が磨滅し調整は不明である。胎土は灰白色で中心部は黒色を呈している。

溝30出土遺物(9～11) 出土遺物には土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・瓦などがある。いずれも小片で図示できた資料は少ない。9世紀後半代の遺物が中心で、前半のものが少し含まれる。土師器皿(9)は口径14.9cm、器高2.7cmある。口縁端部を内側に僅かに丸める。焼成は軟質で表面が内外面とも磨滅しており、調整は不明である。緑釉陶器椀(10)は底部が僅かに凹む平底である。胎土は灰白色の軟質で、釉は外面の底部から体部にかけての屈曲部に僅かに残る。灰釉陶器皿(11)は高台部周辺の小破片で、高台内を除いて薄く釉が掛る。内面に目痕が残る。

溝33出土遺物(12) 出土遺物は土師器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦片の小片で、図示できたものは緑釉陶器椀(12)のみである。胎土は灰色で全面に薄く釉が掛り、平底の底部に「×」のへら記号がある。

柱穴19出土遺物(13) 柱穴掘形から出土した須恵器有蓋高杯の脚部で、底径は9.6cmある。脚端部は屈曲して立ち上がり、長方形の透かしが入る。焼成は良く、色調は灰色を呈する。TK47形式と考えられる。

柱穴47出土遺物(14) 柱穴掘形から出土した。瓦当面は荒れて中心飾付近の界線と珠文が残るのみである。凹面に布目、凸面に縄目が残る。焼成は軟質である。平安時代前期の製品である。

土坑15出土遺物(15～17) 近世の土器・陶磁器類を主体に、中世の常滑陶器、平安時代前期の土師器・須恵器・瓦類が少量出土した。土師器皿(15)は口径6cmの小型皿Nrである。刷毛目椀(16)は口径11.2cmの肥前系陶器である。土製人形(17)は虚無僧を象った施釉人形で、前後型合わせで、底部が開く。頭部と体部中央に緑彩、その他は透明な鉛釉が掛る。18世紀

中頃の出土遺物である。

掘下げ・検出中の出土遺物（18～21）第1面および第2面の遺構検出中などに出土した遺物である。平安時代前期のものを中心に、少量ながら鎌倉・室町時代の輸入陶磁器類・焼締陶器、江戸時代の陶磁器類がある。灰釉陶器（18・19）はいずれも小片で、18は内外面施釉、19は内面施釉される。調査区西側中央付近の第2面検出中の出土遺物である。須恵器蓋（20）は口径13 cmある。表面は灰白色を呈するが、胎土の内部は赤灰色である。瓦器火入（21）は外面に菊花状のスタンプがあり、厚さ約1.5 cmの小片である。外面は二次被熱により、赤灰色を呈する。

その他の出土遺物（22～27） その他の遺物には、主に調査区北東部のコンクリート基礎の掘形を重機掘削中に出土したものがある。灰釉陶器椀（22）は口径16 cm、器高5.6 cmある。外面高台際までと、内面体部中央付近まで薄く失透した灰釉が掛る。胎土は灰白色で、焼成はやや軟質である。9世紀後半代のものである。白磁椀底部（23）は内面に比較的厚く釉が掛り、外面は残存範囲に釉は見られない。平安時代末期から鎌倉時代初頭頃の製品と思われる。肥前陶器（24）は内面に砂目痕のある灰釉皿で、17世紀初頭～前半のものである。

これ以外に特異な遺物として、同じく重機掘削中に出土した窯道具がある。ハマ（25）は直径約6 cmの薄い板状品で、両面にアルミナの白泥が塗布されている。胎土は磁器質である。ハマ（26）は直径4.2 cm、厚さ1 cmの逆台形を呈し、上面がわずかに凸レンズ状になる。胎土は同じく磁器質である。25・26ともに円錐ピンなどの痕跡はない。トチン（27）は残存長約11 cm、最大径約8.9 cmの円筒形を呈する。胎土は半磁胎で表面に石英粒が目立ち、表面は焼成の際の自然釉が掛る。ハマ類が磁器質であることから近世の物である可能性が高い。

落込み117から動物の骨が出土した。種類は不明であるが、観察により大型動物の可能性が高い。

5. ま と め

今回の調査で検出した遺構・遺物は、縄文時代、弥生時代から古墳時代、平安時代、室町時代以降の大きく4時期に分けられる。以下では、その成果について平安時代の宅地の変遷を中心にまとめたい。次いで縄文時代の遺構・遺物についても、既往調査の成果と合わせてその概略をまとめる。

(1) 縄文時代

落込み117からは、縄文時代の土器や石器が整理箱に1箱分出土している。縄文土器には中期末葉（北白川C式Ⅲ～Ⅳ期）、後期前葉から中葉（北白川上層式Ⅰ～Ⅱ期）、晩期（滋賀里Ⅲa、篠原式～滋賀里Ⅳ、長原式）のものがある。量的には晩期中葉から末の土器が多くみられる。器種には深鉢・浅鉢がある。縄文土器は2006年から行った三・六・十一町での一連の調査では初めての出土となった。西隣の前回調査では、縄文時代とみられる石鏃が出土していたが、今回は晩期の可能性のある石鏃が出土している。当地は、標高24.1mの盆地内の低湿地であったとみられる。

(2) 弥生時代から古墳時代

不定形の土坑を多数検出している。遺構の検出状況からは、道路施設に伴う基盤地業と類似しているが、当地の下層は安定した堆積状態であることから、遺構の性格については判然としない。出土した遺物は、少量の土器片や石器片であった。この間の一連の調査においても、この時期に属する遺構や遺物が少量ではあるが出土している。2次調査では弥生時代終末から古墳時代前期頃の土器片が出土しており、3次調査では、東西で不定形土坑群を検出している。さらに流路からは庄内・布留期と推定される土師器や、6世紀後半代の須恵器まで、古墳時代の幅広い年代のものが出土している。周辺には北西方向に西院遺跡、南方には衣田町遺跡などの弥生時代から古墳時代の遺跡が位置している。当地は両遺跡のほぼ中間地点にあたることから、どちらかの遺跡もしくは両遺跡に関連性があるとみられる。

(3) 平安時代（図20）

平安時代の右京六条二坊六町内の北東部における宅地利用の一端を知ることができた。調査地の北に六条坊門小路、東には西靱負小路が位置するが、今回の調査区内には条坊関連の遺構はあたらぬ。

今回の調査においても平安時代初期の遺物がほとんど出土していないことから、平安京造営当初には、当地はまだ宅地化されていなかったとみられる。

この六町は、9世紀中頃になってから宅地として整備されていったことがわかった。中頃から後半頃の間、大まかに2時期の建物配置がある。第1期には南北棟の掘立柱建物2、柵3～7などがある。柵3～5は同様の位置に複数あることから、造り替えがあったと見られる。第2期

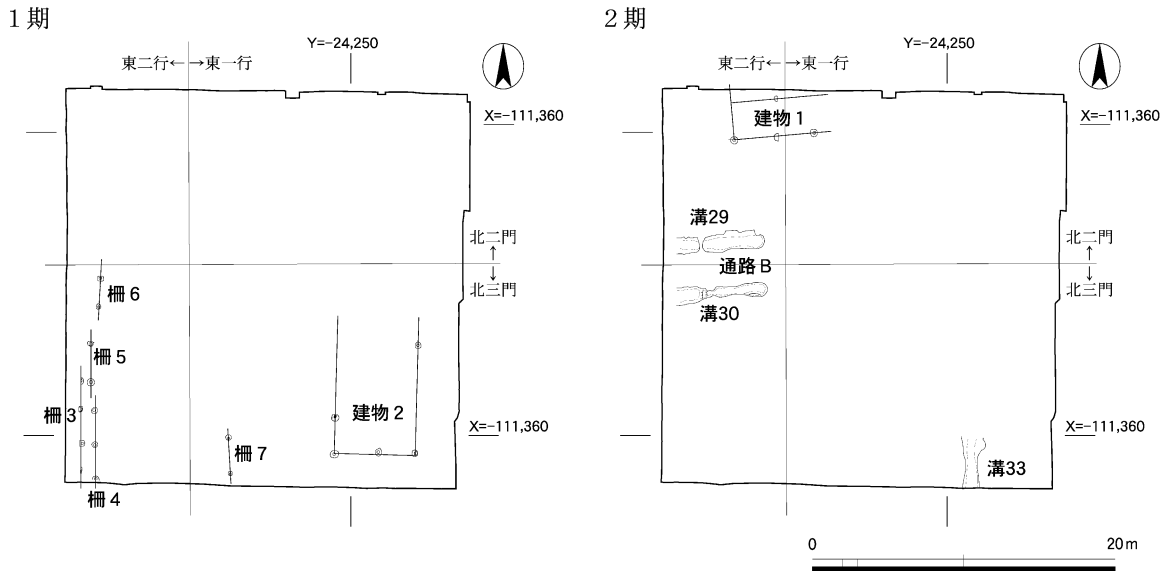


図20 平安時代遺構変遷図(1:400)

になると、北二門と北三門の境には、2条の並行する溝29・30による東西通路Bが造られ、宅地は分割されるとみられる。北側の宅地には東西棟の掘立柱建物1が造られる。溝と建物の傾きが同じであることから、同時期のものと判断した。建物2の位置には、新たに南北方向の溝33が造られる。この溝は宅地内の区画割りに関連する可能性がある。東西通路Bは、3次調査の通路Bの東延長である。その位置は、六町内を南北に四分する位置となる北二・三門境にあり、規模や位置から「延喜式」に記載されている1町内に通ずる「小径」と考えられる。溝29・30の東端は、ともに東一行と東二行の境の位置で検出しているが、この溝の底部は深さが一定ではないことから、後世の削平により遺構が消滅したと考えられる。さらに、東側が既存建物基礎により遺構面が失われているため、東一行部分の溝の存在が不明であるが、北東に位置する東西棟の掘立柱建物2と同様の傾きをもつことから、この小径は西側の西堀川小路から東側の西靱負小路まで続いていたと考える。しかし、東二行までとみる可能性も考えられる。

その後、9世紀末頃を境に遺構・遺物とも検出されなくなり、10世紀の早い段階で荒廃したことも確認できた。

(4) 室町時代以降

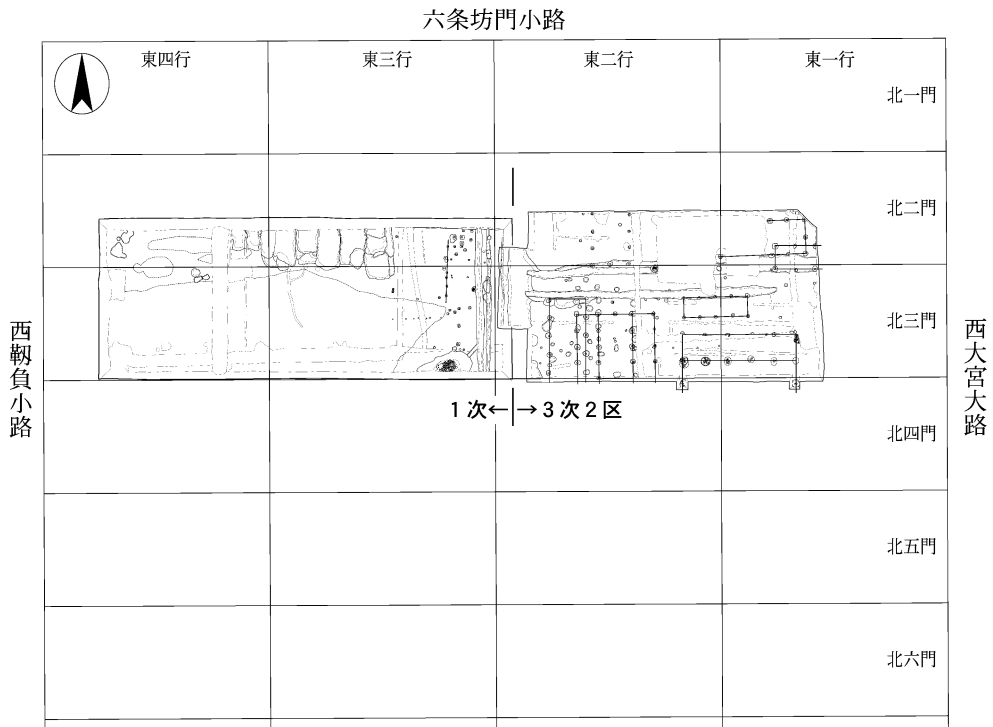
室町時代の遺構や遺物の検出が少ないことから、この時期の土地利用は低調であったとみられる。以降は近代まで耕作地としての利用がなされていた。

耕作に関連する遺構には、溝や段差を検出している。緩やかな南に下がる斜面地形に東西方向の溝で区画がなされる。区画溝の南側を削平し、北側には盛土をすることによって溝の南北両側にそれぞれ平坦面を造成している様子がわかった。

(5) 縄文時代の遺構・遺物に関して(図22、表4)

京都盆地周辺には、比叡山西南麓、桂川西側の乙訓地域、小丘陵を隔てた山科盆地などで多く

右京六条二坊三町



右京六条二坊六町

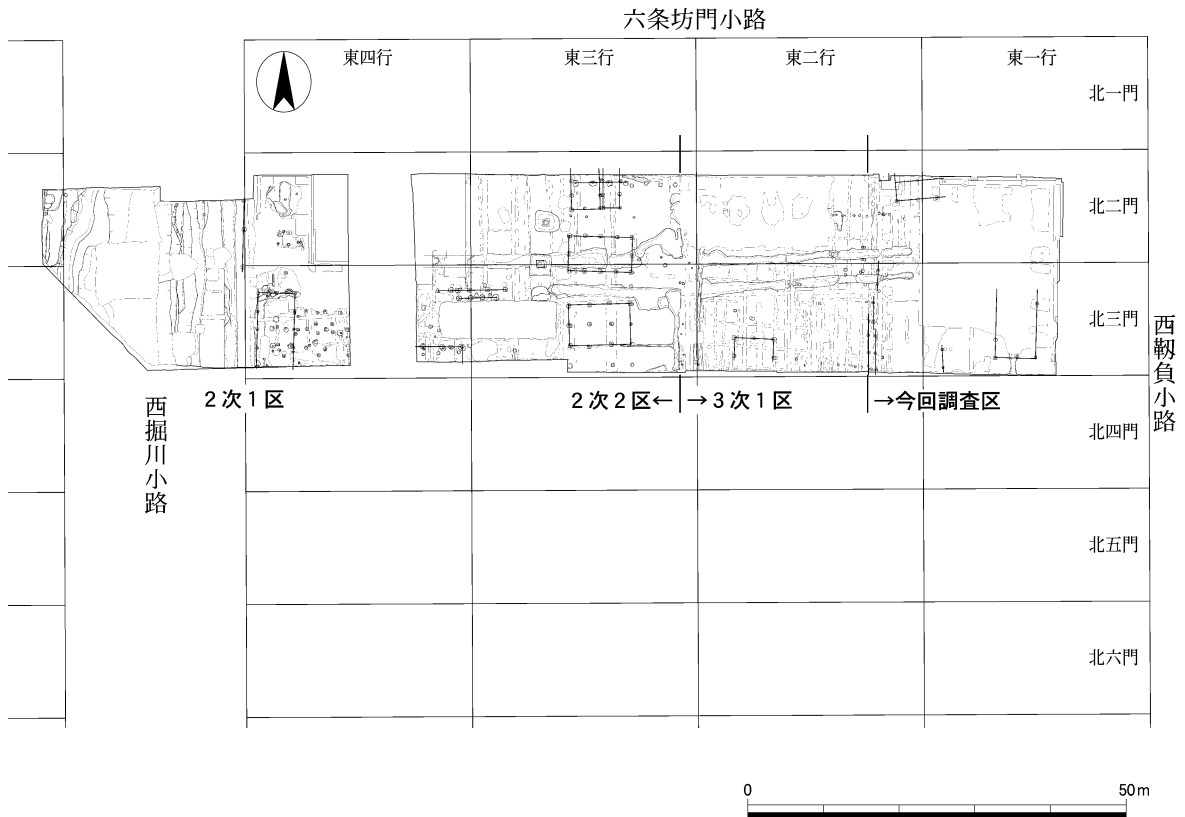


図 21 四行八門内における調査区 (1 : 1,000)

の縄文時代の遺跡が確認されている。また、盆地中心部においても遺構・遺物の検出例が多く報告されている。平安京の範囲内には、京都市遺跡地図台帳に記載されるこの時期の遺跡として、二条城北遺跡・烏丸丸太町遺跡・堀川御池遺跡・烏丸町遺跡の4遺跡がある。この中で二条城北遺跡・烏丸丸太町遺跡・堀川御池遺跡の3遺跡は、当調査地から北東方向におよそ2.1～3.8 km離れており、遺物の出土している標高は約42mである。一方、烏丸町遺跡は当調査地から南東方向におよそ2.1 km離れており、標高約25mで遺物が出土している。当地は標高約24mであった。

平安京内における縄文時代の出土遺物の報告例は80件を超えている。これらを表4にまとめ、図22に地点を記した。ここでは当調査地に近い右京五条から七条、さらに左京六条における縄文土器および石器の出土例を概観しておく。右京六条では一坊内で10件、二坊内では今回を含めて2件、三坊内で2件、四坊内で3件の例がある。右京五条の二坊では3件、四坊内では1件、右京七条一坊内では2件二坊内では1件の例がある。また、左京六条では一坊内で2件の例がある。右京六条一坊内での調査(12・26・35・36・75～80)では、草創期のチャート製尖頭器が出土しており、また、中期・後期の浅鉢や晩期の突帯文深鉢も出土している。土器類はほとんどが流路堆積の砂層や腐植土層から散発的に出土しており、ほかにも後世の遺構からの出土であり、すべてが2次的堆積であった。二坊内での調査(81)では、平基形の石鏃が弥生時代の土坑から1点出土している。さらに今回調査で落込み状遺構から出土した中期から晩期の資料も加わることとなった。三坊内での調査(28)では、土坑状遺構・ピット状遺構・遺物包含層から土器や石器が出土している。中期の浅鉢・深鉢・無文土器、晩期の突帯文土器(滋賀里IV式、長原式)があり、石器には磨製石斧・石鏃・石槍・石匙・剥片などがある。出土地点は微高地上に立地しており、小規模かつ短期間に営まれたキャンプサイト的な地点とみられている。四坊内での調査(37)においても、土坑状遺構・遺物包含層から、後期の深鉢、晩期の皿鉢・打製石斧が出土している。ここは自然堤防上に立地しており、遺構群は調査区南に広がる可能性が考えられている。さらに他の2件(38・83)では、磨消縄文土器・深鉢底部・注口土器、石鏃などが後世の遺構や遺物包含層から出土している。右京五条二坊十一町内での調査(11)では、地山上面の窪みから草創期とみられるチャート製柳葉状尖頭器が出土している。さらに一町内での調査(9)では、草創期とみられる有舌尖頭器が出土している。また、九・十六町内での調査(10)では、後・晩期の磨製石斧が後世の遺物包含層から出土している。四坊十二町での調査(55)では、晩期の甕形土器が湿地状堆積層から出土している。右京七条一坊内での調査(29)では、地山上面の窪みから中期の甕形土器が出土している。二坊内での調査(56)では、落込み状遺構から晩期の土器が出土している。左京六条一坊内での2件の調査(36・61)では、磨消縄文土器が流路堆積の砂層から出土している。

以上のように、当地周辺における縄文時代の遺構からの土器や石器の出土は多くみても4件以内である。ほとんどの例が、旧流路堆積層もしくは後世の遺構からの出土であり、2次的堆積の遺物であった。さらに、いずれも中期から晩期の時期にあたり、今回の出土例も同時期であることから、同様の傾向がみられる。

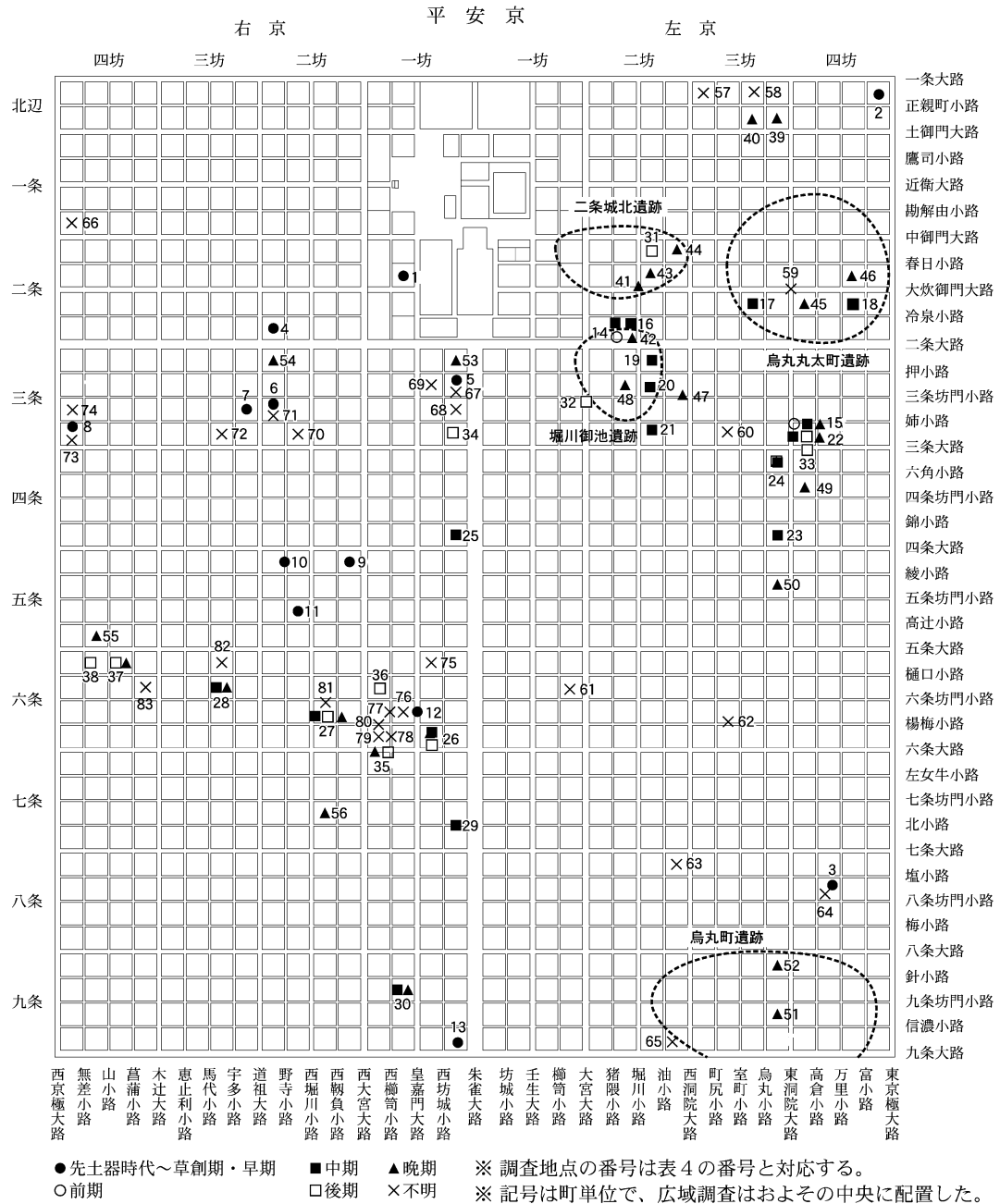


図 22 平安京内縄文時代以前の遺物検出地点

縄文時代の遺跡である二条城北遺跡・烏丸丸太町遺跡・堀川御池遺跡の3遺跡は、当地の北東方向の4 km以内に位置している。京都盆地の地勢はおおまかに北東から南西方向に向かって低くなっており、縄文時代においてもほぼ同様であったとみられる。当地周辺で出土している土器は磨滅の激しいものが多く見られ、さらに出土状況も二次堆積のものがほとんどであることから、当地の北東方向に位置している遺跡などとの関連性を想定できる。また、西方に位置する右京六条三・四坊では遺構が確認されており、今後の資料の増加によっては当地周辺にも縄文時代の遺跡を想定することが可能と考える。

表4 平安京内縄文時代以前の遺物検出地点一覧表

番号	遺跡名	方法	所在地	調査期間	調査概要	文献
先土器時代～草創期・早期						
1	平安宮御井	発掘	中京区西ノ京車坂町(朱雀第六小学校)	1976・1979	先土器時代：石器(サヌカイト製ナイフ形石器 国府型)	1
2	左京北辺四坊八町	発掘	上京区京都御苑	1974	先土器時代：石核(黒曜石)	2
3	左京八条四坊七町	試掘	下京区高倉通塩小路東入小稲荷町・上之町	2002.06.03～2002.06.24	縄文時代草創期：石器(サヌカイト製尖頭器)	3
4	右京二条二坊十三町	立会	中京区西ノ京南上合町4	1980.5.12	縄文時代早期：縄文土器(押型文深鉢 大川式)	4
5	右京三条一坊二町	発掘	中京区西ノ京星池町	1997.10.20～1998.03.28	縄文時代草創期：石器(有舌尖頭器・石匙・石鏃)	5
6	右京三条二坊十四町	発掘	中京区西ノ京下合町20～22	2006.02.10～2006.04.01	先土器時代末～縄文時代草創期：石器(サヌカイト製ナイフ形石器)	6
7	右京三条三坊三町	発掘	中京区西ノ京桑原町1	1980.04.10～1980.07.15	先土器時代：石器(サヌカイト製尖頭器) 縄文時代：石器(チャート製石鏃)	7
8	右京三条四坊十三町	発掘	右京区山ノ内西八反田町	2004.01.22～2004.05.07	先土器時代末～縄文時代草創期・早期：石器(チャート製柳葉状尖頭器・サヌカイト剥片)	8
9	右京五条二坊一町	発掘	中京区壬生東土居ノ内町20(朱雀第七小学校)	1978.07.17～1978.08.31	縄文時代草創期：石器(サヌカイト製有舌尖頭器)	2
10	右京五条二坊九・十六町	発掘	右京区西院三蔵町17	1990.04.02～1990.07.23	先土器時代：石器(頁岩製ナイフ形石器・剥片) 縄文時代後・晩期：石器(磨製石斧)	9
11	右京五条二坊十一町	試掘	右京区西院平町60-1他	1989.11.10	先土器時代末～縄文時代草創期：石器(チャート製柳葉状尖頭器)	10
12	右京六条一坊六・十一町	発掘	下京区中堂寺南町・粟田町	1993.08.07～1994.03.24	縄文時代草創期：石器(チャート製尖頭器) 後期～晩期：縄文土器	11
13	右京九条一坊四町	発掘	南区唐橋羅城門町	1971	先土器時代：石核(チャート)	2
前期						
14	左京二条二坊五町、堀川御池遺跡	発掘	中京区二条通堀川西入二条城町541	2001.10.01～2002.03.29	縄文時代前期・中期：縄文土器、石器(石斧・石鏃・剥片)	12
15	左京三条四坊四町	発掘	中京区高倉通姉小路下る東片町・東洞院姉小路下る曇華院前ノ町	1986.06.25～1986.10.18	縄文時代前期・中期・晩期：縄文土器(深鉢・浅鉢)	13
中期						
16	左京二条二坊五町、堀川御池遺跡	発掘	中京区二条通堀川西入二条城町541	1981.08.04～1981.11.09	縄文時代中期：縄文土器	14
17	左京二条三坊十一町	発掘	上京区烏丸通樺木町下る春日町・京都御苑	1975.06.28～1975.07.31	縄文時代中期：縄文土器	15
18	左京二条四坊十一町、烏丸丸太町遺跡	発掘	中京区柳馬場通竹屋町下る五町目242(御所南小学校)	1992.12.16～1993.05.21	縄文時代中期末～後期前半：縄文土器	16
19	左京三条二坊九町、堀川御池遺跡	発掘	中京区油小路通二条下る二条油小路町280・堀川通二条下る土橋町8-2	1983.08.22～1984.04.04	縄文時代中期初頭：縄文土器(新保式)	17
20	左京三条二坊十町、堀川御池遺跡	発掘	中京区押堀町(旧城巽中学校)	2006.12.08～2008.03.10	縄文時代中期：縄文土器(船元式)	—
21	左京三条二坊十二町、堀川御池遺跡	立会	中京区堀川通姉小路下る姉東堀川町81-1	2002.10.28～2002.11.05	縄文時代中期：縄文土器(甕)	18
22	左京三条四坊四町	発掘	中京区東洞院姉小路下る曇華院前ノ町	1987.02.02～1987.06.27	縄文時代中期・後期・晩期：縄文土器(深鉢・浅鉢・壺)	19
23	左京四条三坊十三町	発掘	中京区錦小路通烏丸東入元法然寺町684他	1989.05.18～1990.03.03	縄文時代中期末：縄文土器小片(北白川C式)	20
24	左京四条三坊十六町	発掘	中京区六角通東洞院西入堂ノ前町248	1994.03.24～1996.03.02	縄文時代中期・後期・晩期：縄文土器(深鉢・浅鉢・壺)	21
25	右京四条一坊四町	発掘	中京区壬生花井町	2004.10.18～2004.12.17	縄文時代中期：縄文土器(深鉢、北白川C式1期)	22
26	右京六条一坊五町	発掘	下京区中堂寺南町17他	1987.09.16～1988.04.26	縄文時代中期・後期・晩期：縄文土器、石器(磨製石斧・石棒・石鏃・叩き石)	23
27	右京六条二坊六町	発掘	下京区西七条東御前田町	2008.03.17～2008.05.27	縄文時代中期・後期・晩期：縄文土器(深鉢・浅鉢)、石器(石鏃)	本報告

番号	遺跡名	方法	所在地	調査期間	調査概要	文献
28	右京六条三坊七町	発掘	右京区西院迫分町25-1,2	2000.11.06～ 2002.11.08	縄文時代中期・晩期：縄文土器（浅鉢・深鉢）、石器（磨製石斧・石鏃・石槍・石匙・剥片）	24
29	右京七条一坊三・四町	発掘	下京区朱雀堂ノ口町10-1-1他	1982.01.27～ 1982.10.15	縄文時代中期：縄文土器（甕 船元式）	25
30	右京九条一坊十町	発掘	南区唐橋門脇町35（八条中学校）	1988.09.08～ 1988.12.28	縄文時代中期・晩期：縄文土器（中期深鉢・晩期瓶）	26
後期						
31	左京二条二坊九町、二条城北遺跡	発掘	中京区丸太町通油小路西入丸太町18	1988.07.01～ 1988.08.08	縄文時代後期：縄文土器（中津式）	27
32	左京三条一・二坊、堀川御池遺跡	発掘	中京区押小路通（堀川通～智恵光院通）	1991.06.21～ 1992.04.25	縄文時代後期後半：縄文土器、石器（石鏃）	28
33	左京三条四坊四町	発掘	中京区三条通東洞院東入菱屋町30	1975.06.26～ 1975.11.30	縄文時代後期：縄文土器（鉢）	29
34	右京三条一坊四町	試掘	中京区西ノ京梅尾町1-6他	1993.07.19～ 1993.07.30	縄文時代後期：石器（サヌカイト製）	30
35	右京六条一坊十二・十三町、七条一坊十六町	発掘	下京区中堂寺栗田町1	1989.03.28～ 1989.06.07	縄文時代後期～晩期：縄文土器微量、石器	31
36	左京六条一坊十五町	発掘	下京区中堂寺櫛笥町21-4他	1990.08.27～ 1990.12.10	縄文時代後期：縄文土器（磨消縄文）	32
37	右京六条四坊八町、西京極遺跡	発掘	右京区西院月双町82	2006.07.24～ 2006.09.25	縄文時代後期～晩期：縄文土器、石器（石鏃・石製品）	33
38	右京六条四坊九町	発掘	右京区西院月双町	1990.08.06～ 1990.12.28	縄文時代後期：縄文土器（深鉢）、石器（打製石斧）	34
晩期						
39	左京北辺三坊六町	発掘	上京区烏丸通上長者町上る龍前町・花立町	1978.02.01～ 1980.03.31	縄文時代晩期：石器（石鏃・石錐など）	35
40	左京北辺三坊七町	発掘	上京区烏丸通中立売通下る京都御苑	1975.02.20～ 1975.03.02	縄文時代晩期：縄文土器（長原式）	36
41	左京二条二坊、二条城北遺跡	立会	上京区丸太町通（大宮通～東堀川通）	1983.09.14～ 1984.03.08	縄文時代晩期：縄文土器（浅鉢）	37
42	左京二条二坊五町、堀川御池遺跡	発掘	中京区二条通堀川西入二条城町541	1981.08.04～ 1981.11.09	縄文時代晩期：縄文土器（甕）	38
43	左京二条二坊十町、二条城北遺跡	発掘	中京区竹屋町通油小路西入西竹屋町11他	2005.07.06～ 2005.09.28	縄文時代晩期：縄文土器（深鉢・浅鉢片、滋賀里4期）、石器（石刀）、石斧柄（木製）	39
44	左京二条二坊十六町、二条城北遺跡	発掘	中京区丸太町通小川西入横鍛冶町100	1988.09.07～ 1988.09.21	縄文時代晩期：縄文土器（浅鉢）	40
45	左京二条四坊三町、烏丸丸太町遺跡	発掘	中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1他（旧竹間小学校）	1997.10.29～ 1998.07.08	縄文時代晩期：縄文土器細片	41
46	左京二条四坊十町、烏丸丸太町遺跡	発掘	中京区丸太町通柳馬場東入四町目（京都地方・簡易裁判所）	1997.10.01～ 1999.02.26	縄文時代晩期：縄文土器、打製石器（安山岩製小型剥片）	42
47	左京三条一・二・四坊、堀川御池遺跡	発掘	中京区二条市炉町・高宮町・綿屋町他	1992.04.27～ 1993.03.31	縄文時代晩期：縄文土器（深鉢）	43
48	左京三条二坊七町、堀川御池遺跡	発掘	中京区押小路通堀川西入二条城町	1993.03.18～ 1993.05.08	縄文時代晩期：縄文土器	44
49	左京四条四坊二町	発掘	中京区東洞院通六角下る御射山町272	1990.10.19～ 1991.04.26	縄文時代晩期：縄文土器、石器（塩基性結晶片岩製石刀）	45
50	左京五条三坊十五町	試掘	下京区二帖半敷町	1974.06.01～ 1974.06.27	縄文時代晩期：縄文土器（船橋式）	46
51	左京九条三坊十三～十五町、烏丸町遺跡	発掘	南区東九条西山王町他	1985.02.27～ 1985.11.01	縄文時代晩期：石器（石鏃）	47
52	左京九条三坊十六町、烏丸町遺跡	発掘	南区東九条西山王町18他	1981.03.14～ 1981.07.15	縄文時代晩期：縄文土器（船橋式）	48
53	右京三条一坊一町	発掘	中京区西ノ京梅尾町（国鉄二条駅構内）	1984.03.26～ 1984.04.07	縄文時代晩期：縄文土器	49
54	右京三条二坊十六町	発掘	中京区西ノ京東中合町1（西京商業高校）	1999.07.08～ 2000.08.30	縄文時代晩期：縄文土器、石器（石鏃）	50
55	右京五条四坊十二町	発掘	右京区西院月双町3	1994.03.01～ 1994.06.05	縄文時代晩期：縄文土器	51

番号	遺跡名	方法	所在地	調査期間	調査概要	文献
56	右京七条二坊六町	立会	下京区西七条市部町28	1981.05.18	縄文時代晩期：縄文土器	52
不明						
57	左京北辺三坊一町	発掘	上京区中立売通室町西入三丁町457 (中立小学校)	1987.09.01～1987.12.19	縄文時代：石器 (磨製石斧)	53
58	左京北辺三坊五町	発掘	上京区中立売通室町上る薬屋町431	1973.07.28～1973.12.22	縄文時代：石器 (石鏃)	54
59	左京二条三・四坊、烏丸丸太町遺跡	立会	中京区丸太町通 (烏丸通～河原町通)	1981.09.17～1982.03.19	縄文時代：石器 (サヌカイトチップ)	55
60	左京三条三坊五町	発掘	中京区衣棚通姉小路下る突抜町134	1980.04.25～1980.06.01	縄文時代：縄文土器	-
61	左京六条一坊十五町	立会	下京区中堂寺櫛筒町26	1987.1.27	縄文時代：縄文土器	56
62	左京六条三坊五・六町	発掘	下京区楊梅新町東入上柳町224 (旧尚徳中学校・楊梅幼稚園跡他)	2004.09.07～2005.07.08	縄文時代：石器 (石鏃)	57
63	左京八条二坊十六町	発掘	下京区油小路下魚ノ棚下る油小路町293	1987.06.29～1987.08.26	縄文時代：縄文土器 (甕口縁部)	58
64	左京八条四坊七町	発掘	下京区高倉通塩小路東入小稲荷町・上之町	2003.09.16～2003.12.26	縄文時代：縄文土器、石器	59
65	左京九条二坊十三町、烏丸町遺跡	試掘	南区西九条春日町19	1984.03.01～1984.03.15	縄文時代：縄文土器 (深鉢)、石器 (横形削器)	60
66	右京一条四坊十三町	発掘	右京区花園伊町41-7	2004.06.07～2004.08.28	縄文時代：石器 (サヌカイト製石鏃)	61
67	右京三条一坊二町、壬生遺跡	試掘	中京区西ノ京梅尾町・星池町 (東西線二条駅)	1993.08.02～1993.10.21	縄文時代：石器剥片	62
68	右京三条一坊三町	発掘	中京区西ノ京梅尾町1-7他	2001.02.01～2001.10.16	縄文時代：石器 (石鏃)	63
69	右京三条一坊七町	発掘	中京区西ノ京星池町	1997.08.18～1997.11.20	縄文時代：石器 (サヌカイト製石鏃)	64
70	右京三条二坊十二町	発掘	中京区西ノ京新建町5-14, 30	1978.11.10～1979.01.07	縄文時代：石器 (石鏃)	65
71	右京三条二坊十四町	発掘	中京区西ノ京下合町	1998.03.19～1998.06.26	縄文時代：縄文土器、石器 (石棒)	66
72	右京三条三坊五町	発掘	中京区西ノ京桑原町1	1988.08.22～1988.11.18	縄文時代：石器 (石鏃)	67
73	右京三条四坊十三町	発掘	右京区山ノ内西八反田町	2003.10.06～2004.01.21	縄文時代：石器 (磨製石斧)	68
74	右京三条四坊十四町	発掘	右京区山ノ内西裏町	2002.06.25～2002.11.05	縄文時代：石器 (サヌカイト製石鏃)	69
75	右京六条一坊八町	発掘	下京区中堂寺北町23 (朱雀第三小学校)	1999.08.02～1999.12.09	縄文時代：縄文土器	70
76	右京六条一坊十一町	発掘	下京区中堂寺粟田町	1991.02.12～1991.06.19	縄文時代：縄文土器小片	71
77	右京六条一坊十一・十四町	発掘	下京区中堂寺粟田町	1995.04.10～1995.12.01	縄文時代：縄文土器	72
78	右京六条一坊十二・十三町	発掘	下京区中堂寺粟田町1	1989.07.20～1990.05.30	縄文時代：縄文土器、石器 (石鏃)	73
79	右京六条一坊十三町	発掘	下京区中堂寺粟田町1	1991.11.18～1992.03.07	縄文時代：縄文土器、石器 (石斧・石鏃)、石斧柄 (木製)	74
80	右京六条一坊十三・十四町	発掘	下京区中堂寺粟田町1	1992.07.13～1993.01.14	縄文時代：縄文土器	75
81	右京六条二坊六町	発掘	下京区西七条御前田町	2007.03.27～2007.08.03	縄文時代：石器 (石鏃 無茎平基形)	76
82	右京六条三坊八町	発掘	右京区西院追分町25-2	1990.09.10～1990.12.01	縄文時代：石器 (チャート製石鏃)	77
83	右京六条四坊二町、西京極遺跡	発掘	右京区西院清水町	2006.12.11～2007.02.09	縄文時代：石器 (チャート製石鏃)	78

※ 表に掲載した調査は、草創期などの期、条坊、調査期間の順に並べた。複数の期に属する遺物が出土している調査は、表では最も古い遺物のグループに入れ、図では複数の記号を提示した。

文献（表4 平安京内縄文時代以前遺物検出地点一覧表）

- 1 鈴木重治「山城出土の旧石器」『考古学ジャーナル』167 ニューサイエンス社 1979年
- 2 京都市編『史料 京都の歴史』第2巻 考古 1983年
- 3 本 弥八郎「平安京左京八条四坊跡」『平成14年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 4 「調査概要一覧表」『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』京都市埋蔵文化財調査センター 1981年
- 5 伊藤 潔「平安京右京三条一坊1」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 6 布川豊治『平安京右京三条二坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-1（財）京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 7 平尾政幸・加納敬二『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 1990年
- 8 能芝 勉・モンペティ恭代『平安京右京三条四坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-1（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 9 定森秀夫・植山 茂・山下秀樹『平安京右京五条二坊九町・十六町』京都文化博物館調査研究報告 第7集 1991年
- 10 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
- 11 平尾政幸『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-6（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 12 平田 泰・東 洋一『史跡旧二条離宮（二条城）』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-15（財）京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 13 植山 茂・山田邦和『高倉宮・曇華院跡第4次調査』平安京跡研究調査報告 第18輯 財団法人古代学協会 1987年
- 14 久世康博「左京二条二坊(3) 史跡二条城」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 15 「No.25」『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報I 1974,75年度』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1979年
- 16 堀内明博・内田好昭・久世康博・丸川義広「平安京左京二条四坊」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 17 菅田 薫・本 弥八郎・吉川義彦「左京三条二坊」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1985年
- 18 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年
- 19 植山 茂・山田邦和・南 博史『平安京左京三条四坊四町』京都文化博物館（仮称）調査研究報告書 第2集 財団法人京都文化財団 1988年
- 20 小森俊寛・上村憲章「平安京左京四条三坊2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 21 江谷 寛・桐山秀穂・植崎修一郎『六角堂第3次・第4次調査』平安京跡研究調査報告 第21輯 財団法人古代学協会 2006年
- 22 津々池惣一・吉村正親『平安京跡・御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-18（財）京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 23 梅川光隆・木下保明・丸川義広『平安京右京六条一坊 一平安時代前期邸宅跡の調査一』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第11冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 1992年
- 24 堀内明博『平安京右京六条三坊』平安京跡研究調査報告 第20輯 古代学協会 2004年
- 25 平田 泰・吉川義彦・菅田 薫「右京七条一坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 26 菅田 薫「平安京右京九条一坊1」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1993年

- 27 網 伸也・内田好昭・高 正龍「平安京左京二条二坊・高陽院跡1」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 28 上村憲章・小森俊寛「平安京左京三条一・二坊・神泉苑跡・史跡旧二条離宮」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 29 寺島孝一・松井忠春『東洞院大路・曇華院跡』中京郵便局新築敷地埋蔵文化財発掘調査報告 平安博物館 1977年
- 30 「試掘・立会調査一覧表」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 31 長宗繁一「平安京右京六・七条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 32 高 正龍「平安京左京六条一坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 33 柏田有香・菅田 薫『平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-14（財）京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 34 山下秀樹『平安京右京六条四坊九町・五条大路』京都文化博物館調査研究報告 第8集 京都府京都文化博物館 1991年
- 35 平良泰久「平安京跡（左京内膳町）昭和54年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報 1980（第3分冊）』京都府教育委員会 1980年
- 36 「No.13」『平安京関係遺跡発掘調査概報 -京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査-』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1975年
- 37 家崎孝治「左京二条二坊」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1985年
- 38 辻 裕司「左京二条二坊(3) 史跡二条城」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 39 平尾政幸・山口 真『平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-7（財）京都市埋蔵文化財研究所 2005年
- 40 内田好昭「平安京左京二条二坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局 1989年
- 41 内田好昭・高 正龍・堀内寛昭「平安京左京二条四坊1」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 42 上村和直・山本雅和「平安京左京二条四坊2」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 43 小森俊寛「平安京左京三条一・二・四坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 44 小森俊寛「平安京左京三条二坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 45 山本雅和「平安京左京四条四坊」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 46 「No.6」『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会概要 1976-1』京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1976年
- 47 小森俊寛・長戸満男「平安京左京九条三坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1988年
- 48 丸川義広・辻 純一『平安京左京九条三坊跡』京都駅南口地区第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財調査概報 昭和55年度（財）京都市埋蔵文化財研究所 1981年
- 49 中村 敦「平安京右京三条一坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1987年
- 50 鈴木廣司・網 伸也・清藤玲子『平安京右京三条二坊十五・十六町 -「齋宮」の邸宅跡-』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 51 伊藤 潔「平安京右京五条四坊」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 52 「調査概要一覧表」『京都市内遺跡試掘・立会調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局 1982年
- 53 辻 裕司「平安京左京北辺三坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 54 高橋美久二「内膳町跡発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報 1974』京都府教育委員会 1974年

- 55 堀内明博「左京二条三・四坊」『昭和 56 年度 京都市埋蔵文化財調査概要（試掘・立会調査編）』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1983 年
- 56 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和 61 年度』京都市文化観光局 1987 年
- 57 丸川義広・能芝 勉・尾藤德行『平安京左京六条三坊五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-8（財）京都市埋蔵文化財研究所 2005 年
- 58 木下保明「平安京左京八条二坊」『昭和 62 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1991 年
- 59 永田宗秀・加納敬二『平安京左京八条四坊七町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-11（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004 年
- 60 「試掘・立会調査一覧表」『昭和 58 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1985 年
- 61 加納敬二・モンベティ恭代・津々池宗一『平安京右京一条四坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-8（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004 年
- 62 平田 泰「平安京右京三条一坊 6」『平成 5 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996 年
- 63 平尾政幸・山口 真・大立目道代・上村和直『平安京右京三条一坊三町（右京職）跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-3（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002 年
- 64 吉村正親「平安京右京三条一坊 4」『平成 9 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1999 年
- 65 平尾政幸「平安京右京三条二坊跡」『平安京跡発掘調査概要』京都市埋蔵文化財研究所概要集 1978（財）京都市埋蔵文化財研究所 1979 年
- 66 南 孝雄「平安京右京三条二坊」『平成 10 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2000 年
- 67 平尾政幸「平安京右京三条三坊」『昭和 63 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1993 年
- 68 能芝 勉・モンベティ恭代『平安京右京三条四坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-15（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004 年
- 69 伊藤 潔・近藤章子『平安京右京三条四坊十四町・四条四坊十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-3（財）京都市埋蔵文化財研究所 2003 年
- 70 山本雅和・上村和直「平安京右京六条一坊 2」『平成 11 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002 年
- 71 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994 年
- 72 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成 7 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1997 年
- 73 長宗繁一「平安京右京六条一坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994 年
- 74 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成 3 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995 年
- 75 平尾政幸「平安京右京六条一坊」『平成 4 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1995 年
- 76 小檜山一良・布川豊治・能芝 勉・尾藤德行『平安京右京六条二坊六・十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-3（財）京都市埋蔵文化財研究所 2007 年
- 77 前田義明「平安京右京六条三坊」『平成 2 年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1994 年
- 78 柏田有香『平安京右京六条四坊二町跡・西京極遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-30（財）京都市埋蔵文化財研究所 2007 年

版 图

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうろくじょうにぼうろくちょうあと							
書名	平安京右京六条二坊六町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2008-2							
編著者名	小檜山一良・能芝 勉・近藤奈央							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2008年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 ろくじょうにぼう 六条二坊 ろくちょうあと 六町跡	きょうとししちぎょうく 京都市下京区 にししちじょう 西七条 ひがしおんまえだちょう 東御前田町	26100		34度 59分 46秒	135度 44分 02秒	2008年3月 17日～2008 年5月27日	658m ²	道路拡幅 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京 六条二坊 六町跡	都城跡	縄文時代	落込み、溝	縄文土器、石器、骨		縄文時代晩期の落 込みを検出した。 古墳時代の不定形 土坑群を検出。平 安時代前期の新旧 2時期の建物配置 を検出した。町内 に開かれた東西方 向の小径を検出し た。		
		弥生時代 ～古墳時代	土坑	弥生土器、土師器、須 恵器				
		平安時代	溝、掘立柱建物、 柵、通路	土師器、黒色土器、須 恵器、灰釉陶器、緑釉 陶器、軒平瓦				
		中世以降	耕作溝、土坑、段差	土師器、瓦器、国産陶 磁器、輸入陶磁器、土 製品、窯道具				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-2
平安京右京六条二坊六町跡

発行日 2008年6月30日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
発行

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1
〒 602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地
〒 604-0093 TEL 075-256-0961